

2020年度決算の概要

(2020年4月1日～2021年3月31日)

ご説明資料

2021年4月30日

 **山陽特殊製鋼株式会社**

目次

1. 2020年度決算の概況

損益の概要

構造ベース利益

業績推移(四半期)

経常利益の変化要因(2019FY→2020FY、2020FY3Q→2020FY4Q)

セグメント別損益

貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書

設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

2020FY配当について

2. 業績予想等

2021FY業績予想

Ovakoの決算期変更について

経常利益の変化要因(2020FY実績→2021FY予想)

当社単独業績、Ovako業績、MSSS業績

業績推移(年度)

2021FY配当予想

3. トピックス

4. 参考資料

新型コロナウイルス感染症への対応

自動車市場の動向、産業機械・建設機械市場の動向、特殊鋼需要の動向

原燃料価格の推移、損益の詳細

損益の概要 (対2019FY)

1. 2020FY業績概要

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う需要環境の悪化により、前期比で売上数量が大幅に減少、緊急収益改善対策を実施し、収益の改善に努めたが、経常利益は2019FY比32億円減の48億円の赤字となった。またインド現地法人MSSSの固定資産減損損失を特別損失に計上し、税後利益は69億円の赤字となった。Ovakoは、コロナ影響等により売上数量、経常利益ともに前期比マイナス。当社単独については、自動車市場等の回復により、コロナ影響が最大化した2Qを底に売上数量が回復し、単独経常利益は22億円の黒字を確保。

(参考) 売上数量…Ovako、MSSSは1～12月期の売上数量

	2020FY(A)		2019FY(B)		増減 (A)–(B)	
	数量	単月	数量	単月	数量	単月
売上数量(千t)	1,367	113.9 /月	1,615	134.6 /月	-249	-20.7 /月
内、当社単独	704	58.7 /月	854	71.2 /月	-150	-12.5 /月
内、Ovako	572	47.6 /月	667	55.6 /月	-96	-7.9 /月
内、MSSS	91	7.5 /月	95	7.9 /月	-4	-0.3 /月

2. 損益計算書 (対2019FY)

(単位:億円、%)

	2020FY(A)		2019FY(B)		対前年同期 (A)–(B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	2,107	100.0	2,625	100.0	-517	-19.7
営業利益	▲55	-2.6	▲14	-0.5	-41	-
経常利益	▲48	ROS -2.3	▲15	ROS -0.6	-32	-
内、当社単独	22	-	40	-	-18	-44.5
内、Ovako(注1)	▲24	-	▲9	-	-15	-
内、MSSS(注1)	▲13	-	▲14	-	+1	-
内、のれん償却費	▲26	-	▲29	-	+3	-
税後利益(注2)	▲69	-3.3	▲37	-1.4	-32	-
税後利益(構造ベース)(注3)	▲42	-2.0	5	0.2	-48	-

(注1) OvakoおよびMSSSの損益は、1～12月の数値 (注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

(注3) のれん償却費を除く税後利益

2019FYについては、MSSSののれん一括償却(13億円)も除く

損益の概要 (対2020FY予想)

(参考) 売上数量	2020FY	2020FY予想 (注1)	対2020FY予想
	(千t/年)	(千t/年)	(千t/年)
売上数量	1,367	1,366	+0
内、当社単独	704	704	+0
内、Ovako	572	572	+0
内、MSSS	91	91	+0

損益計算書 (対2020FY予想)

(単位：億円)

	2020FY (A)	2020FY予想 (B)	対2020FY予想 (A) - (B)
	金額	金額	金額
売上高	2,107	2,110	-3
営業利益	▲55	▲67	+12
経常利益	▲48	▲65	+17
内、当社単独	22	6	+16
内、Ovako	▲24	▲24	+0
内、MSSS	▲13	▲13	+0
内、のれん償却費	▲26	▲26	-0
税後利益(注2)	▲69	▲57	-12

営業利益および経常利益は、対予想で、原燃料価格の低下や、コストダウン活動により、前回公表予想より増加した。

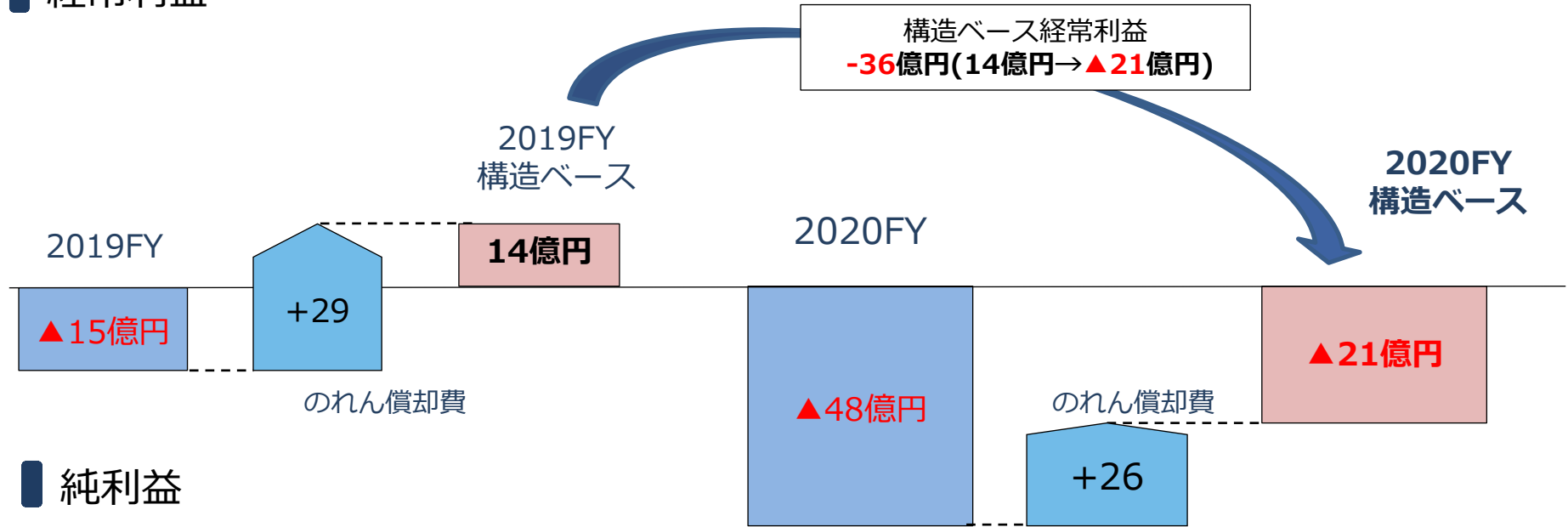
当期純利益は、連結決算において、MSSSの固定資産の減損損失（特別損失）39億円を計上したことが主な要因として減少した。

(注1) 2020FY予想は、2021年1月29日公表値

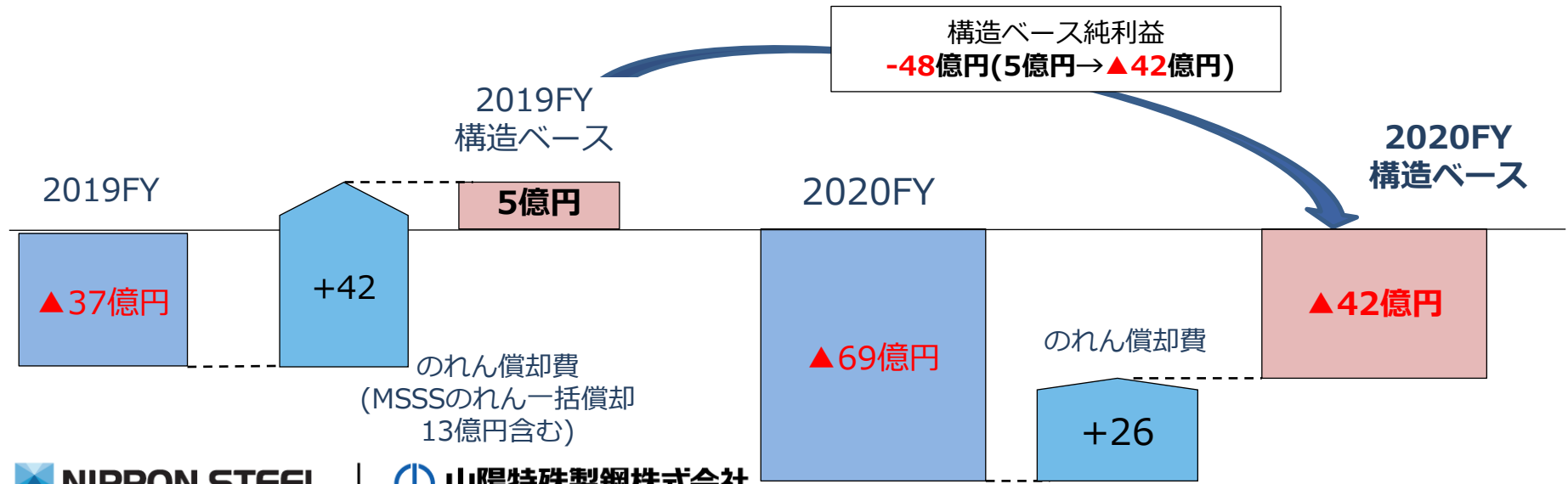
(注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

構造ベース利益 (2019FY→2020FY)

■ 経常利益



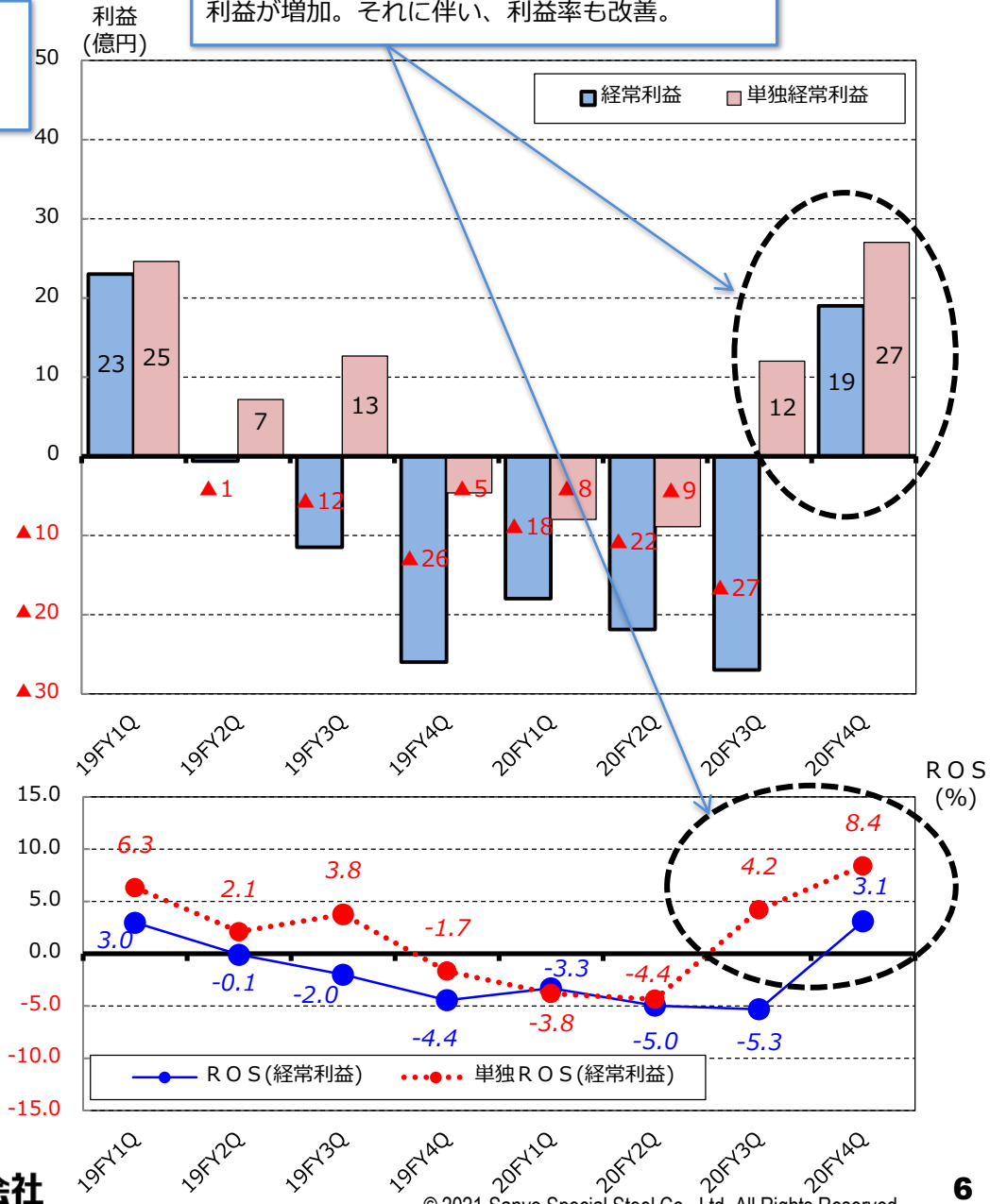
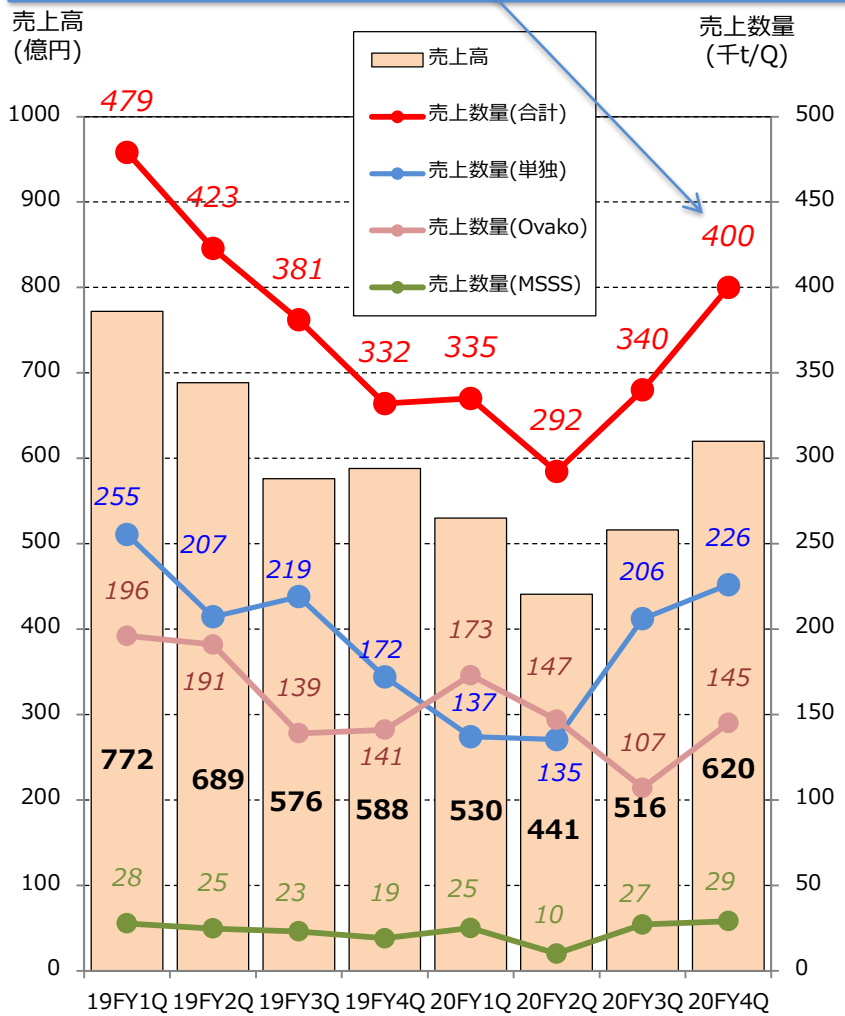
■ 純利益



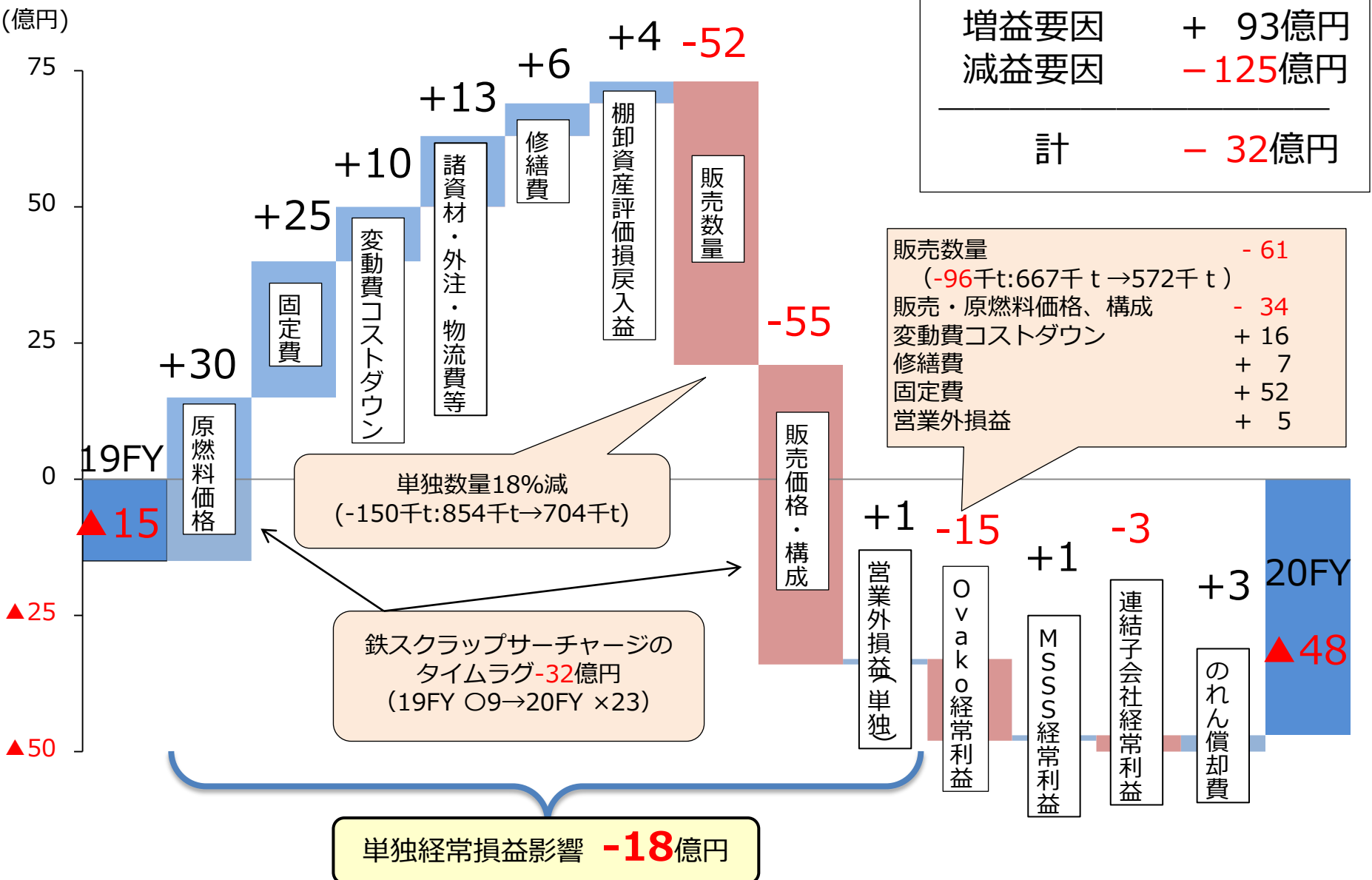
業績推移(四半期)

当社単独：20FY上期はコロナ影響により売上数量減少、下期は回復。
 Ovako：20FY3Q(7-9月)を底に4Qの売上数量は前年同期並みに回復。
 MSSS：20FY2Q(4-6月)を底に売上数量は回復傾向。

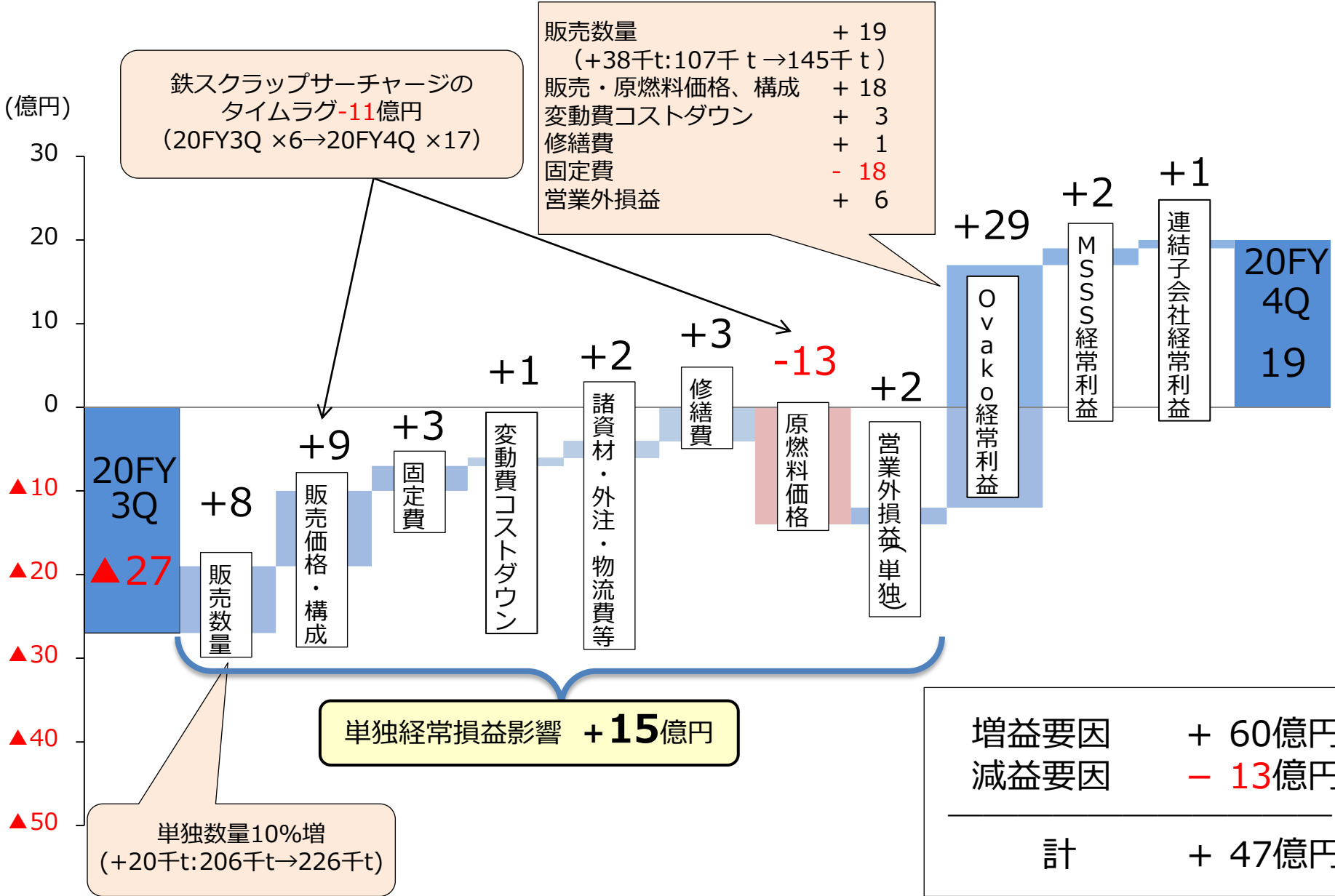
主に当社単独、Ovakoの売上数量回復により、利益が増加。それに伴い、利益率も改善。



経常利益の変化要因 (2019FY→2020FY)



経常利益の変化要因 (2020FY3Q→2020FY4Q)



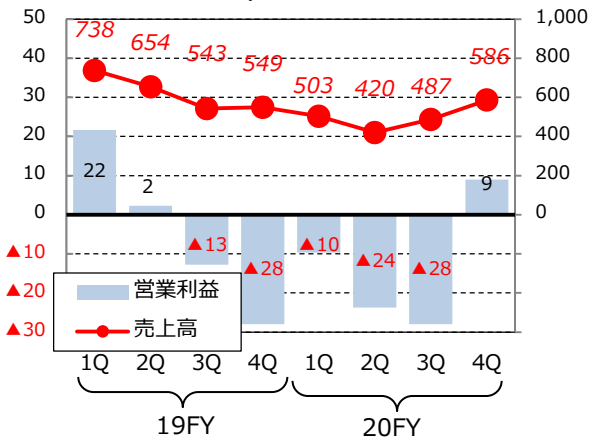
セグメント別損益

(単位：億円、%)

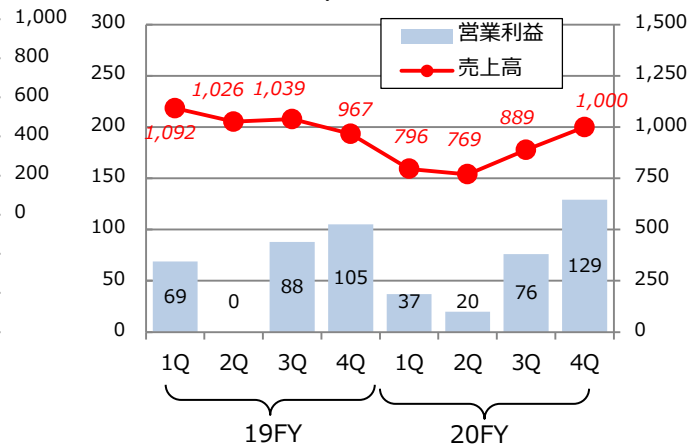
	2020FY(A)			2019FY(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	1,997	▲52	-2.6	2,484	▲17	-0.7	-487	-36	-1.9
粉末	35	3	7.6	41	3	6.4	-7	+0	+1.2
素形材	137	▲6	-4.5	179	▲1	-0.7	-42	-5	-3.8
小計	2,169	▲56	-2.6	2,704	▲15	-0.6	-536	-41	-2.0
その他	16	0	2.9	19	1	3.6	-3	-0	-0.7
調整額	▲77	0	—	▲99	0	—	+21	+0	—
連結計	2,107	▲55	-2.6	2,625	▲14	-0.5	-517	-41	-2.1

事業別損益推移

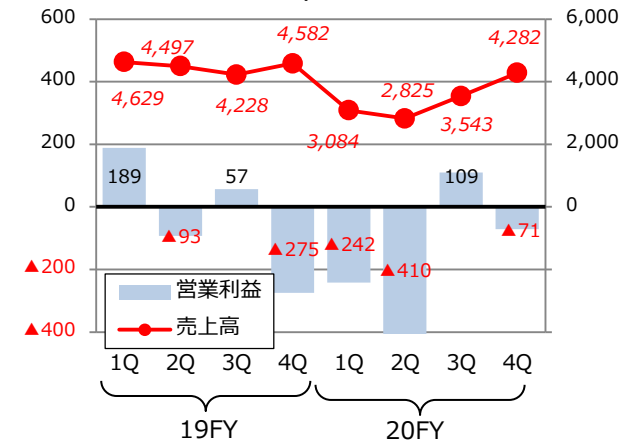
鋼材(単位:億円)



粉末(単位:百万円)



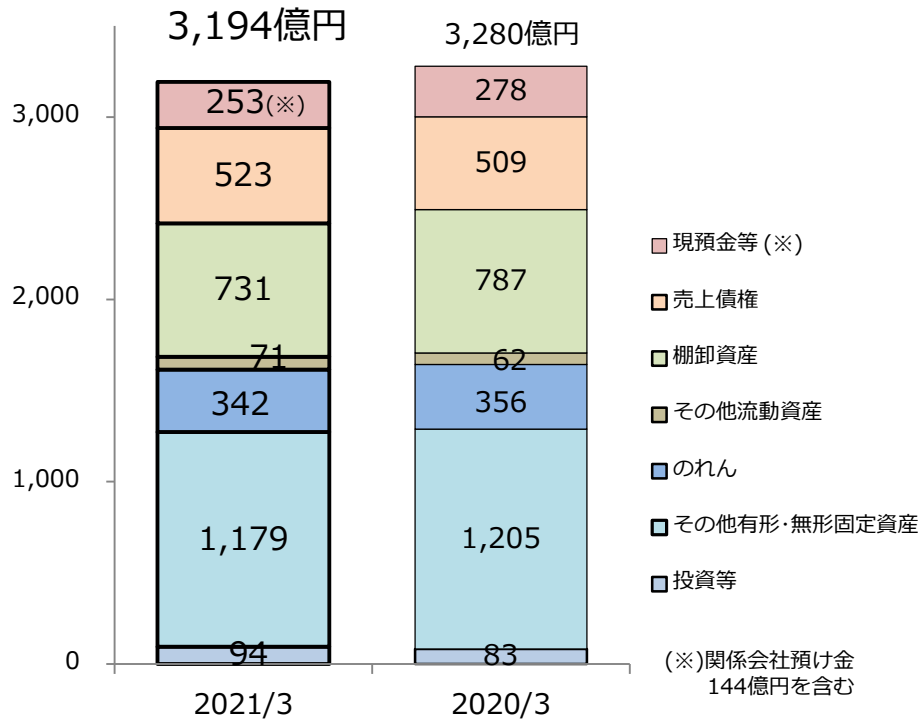
素形材(単位:百万円)



貸借対照表

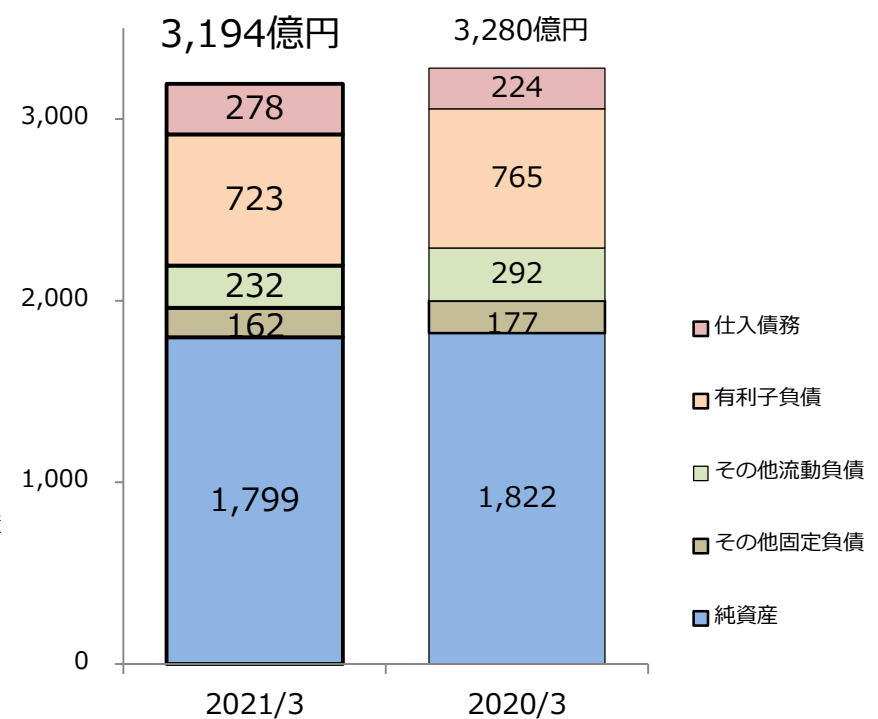
(億円)

資産



(億円)

負債・純資産



資産の主な増減 -86億円 (-3%)

棚卸資産 -55億円：需要の急回復に伴い在庫減少
 固定資産 -26億円：MSSSの固定資産の減損影響等
 のれん -15億円：償却 -26億円、為替影響等 +12億円

負債・純資産の主な増減 -86億円 (-3%)

仕入債務 +55億円：仕入増加、原燃料価格上昇
 その他流動負債 -59億円：未払金減少（主に設備未払金）
 純資産 -23億円：利益剰余金 -69億円(当期純損失)、
 その他包括利益累計額 +69億円
 非支配株主持分-23億円

(参考)主要各社の総資産額(2021/3末:連結消去前)
 当社 2,434億円 Ovako 921億円 MSSS 92億円

自己資本比率
 2021/3末 **55.9%** 2020/3末 54.4%

キャッシュ・フロー計算書

2020FY決算

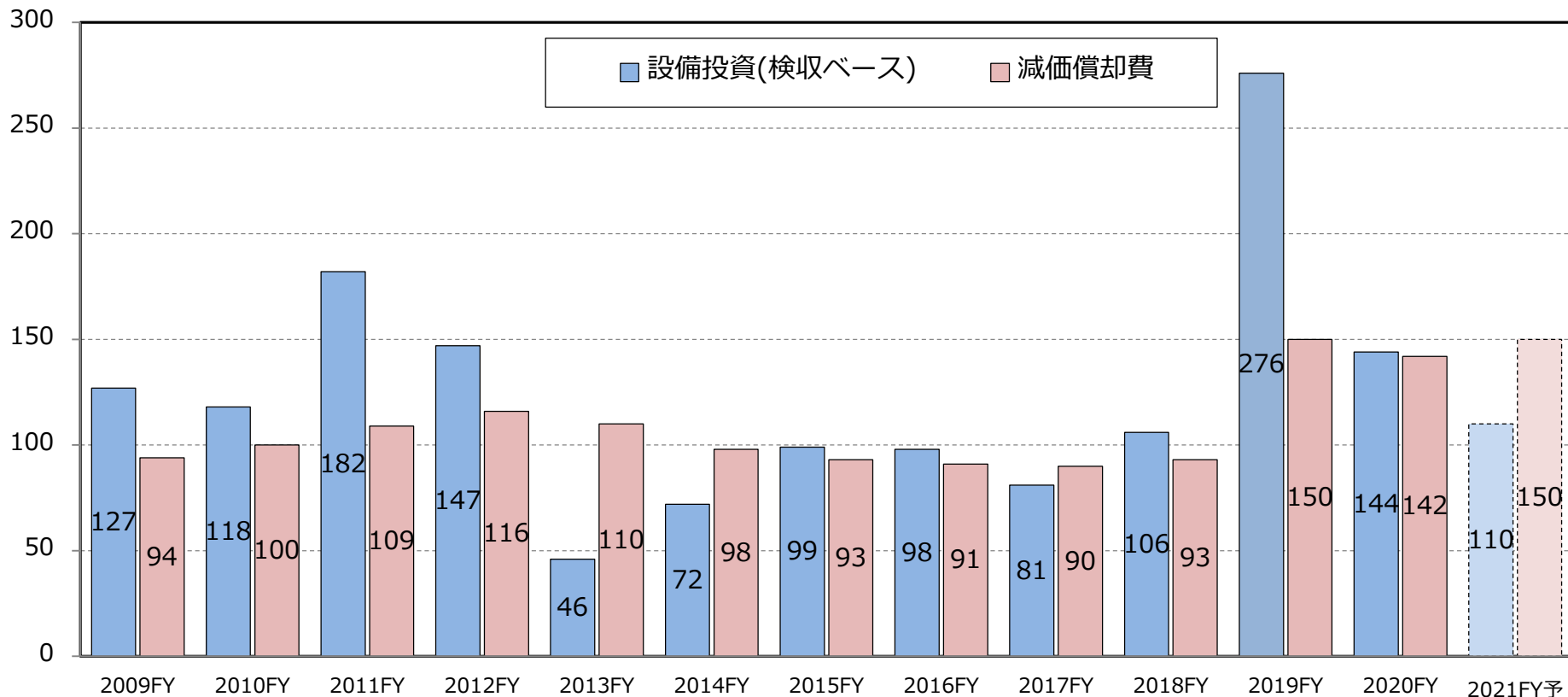
営業CFは潤沢

(億円)

	2016FY	2017FY	2018FY	2019FY	2020FY
営業活動によるC/F (A)	151	△56	108	394	223
税金等調整前当期純利益	206	193	200	160	112
EBITDA (簡便計算)	{ 115 91 }	{ 103 90 }	{ 104 96 }	{ △33 193 }	{ △95 207 }
減価償却費・のれん償却費等	△40	△37	△33	△42	13
法人税等の支払または還付	△15	△212	△60	276	98
運転資金等					
投資活動によるC/F (B)	△111	△84	△690	△125	△194
設備支出	△107	△80	△91	△183	△189
子会社株式取得	—	—	△604	—	—
株式売却収入	—	1	1	22	3
その他	△4	△4	4	36	△8
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	39	△140	△583	270	29
財務活動によるC/F (C)	△108	147	659	△211	△55
借入金・社債・CP・リース債務の増減	△90	166	5	△164	△54
株式の発行による収入	—	—	671	—	—
自己株式の取得または売却	△0	△0	△0	△25	△0
配当金の支払	△18	△23	△23	△22	△0
その他	—	4	5	△0	△0
換算差額 (D)	△3	△0	△2	△4	2
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	△71	8	75	54	△23

設備投資・減価償却費の推移

(億円)

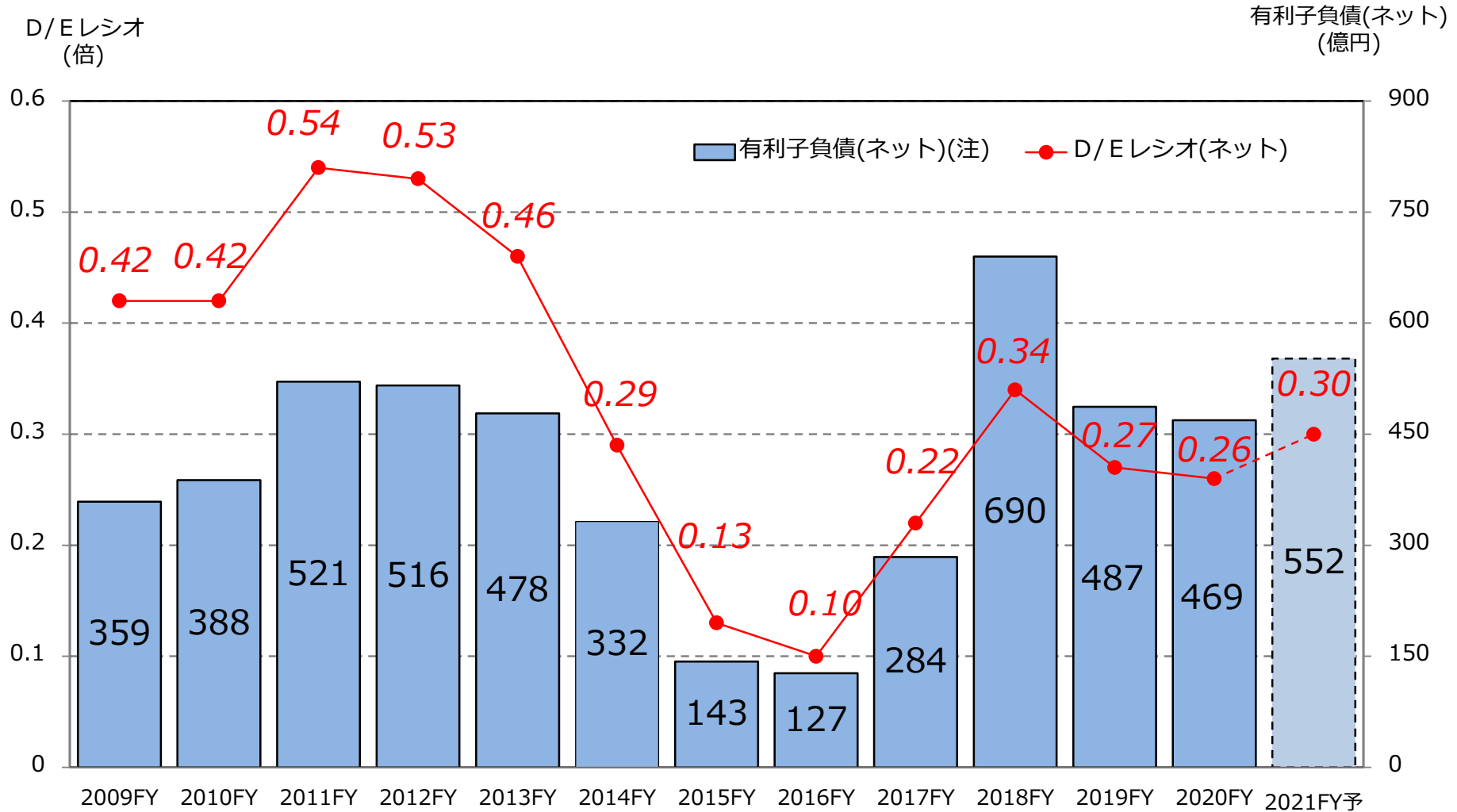


(注)2021FY予想の設備投資(検収ベース)110億円の内、当社単独41億円、Ovako 55億円、MSSS 7億円。
2021FY予想の減価償却費150億円の内、当社単独 79億円、Ovako 63億円、MSSS 0億円。

減価償却方法の変更について

- ◆2020FYより、当社単独および国内子会社は償却方法を変更(定率法→定額法)している。
- ◆従来の方法と比べ、2020FYの減価償却費発生額は△24億円減少し、在庫増減を織り込んだ損益改善効果は△19億円。

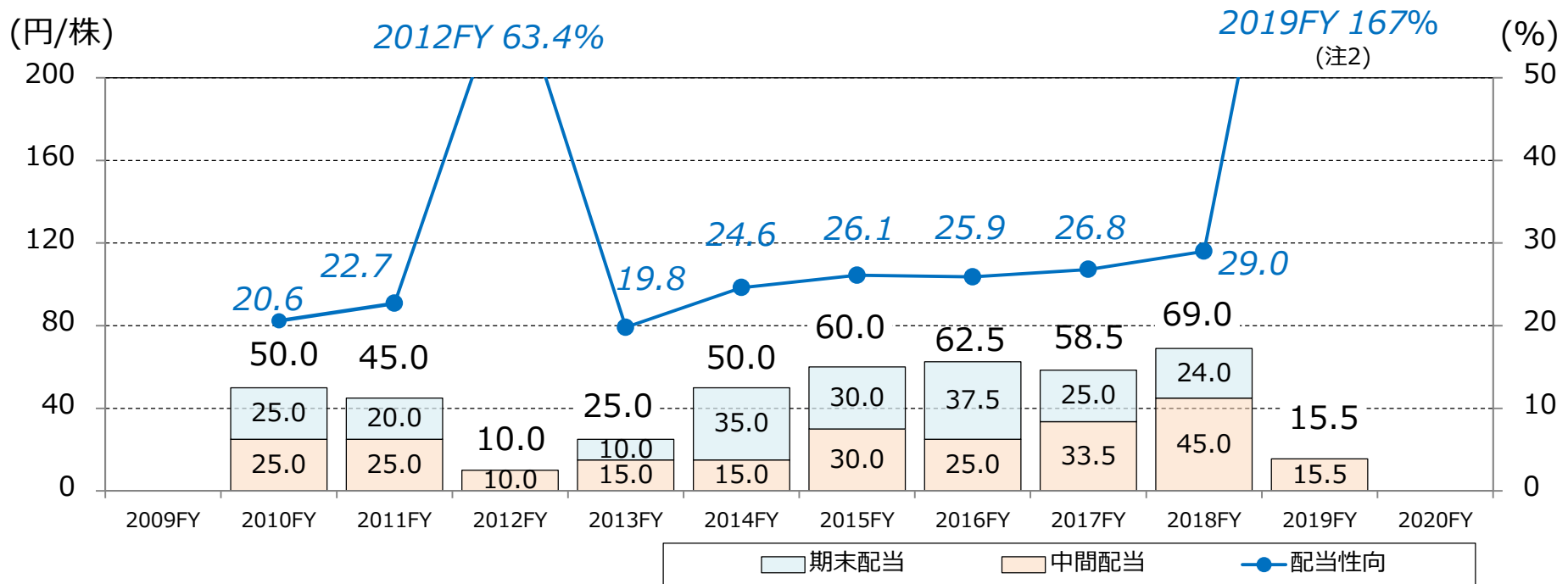
D/Eの推移



(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

2020FY配当について

当期(2020FY)の期末配当につきましては、親会社株主に帰属する当期純損益が69億円の赤字となったため、誠に遺憾ながら、既報のとおり無配とさせていただく予定です。



(注1) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

(注2) のれん償却費を除く1株当たり当期純利益より算出。

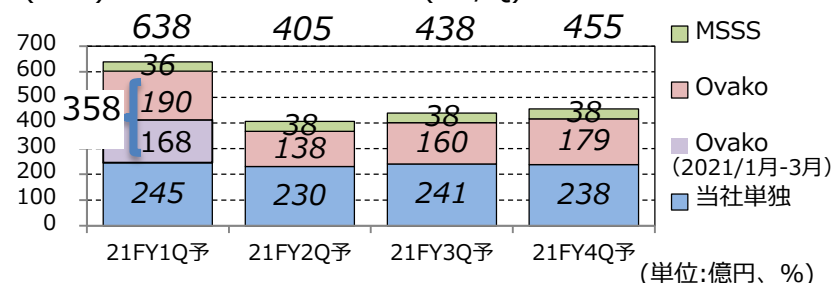
(注3) 2019年度に1,730千株(約25億円)の自己株買いを実施し、2019年12月27日に従来所有分(1,200千株)と合わせて計2,930千株(消却前の発行済株式総数の5.1%)の自己株式を消却。

2021FY業績予想 (2021年4月30日公表)

1. 2021FY見通し

- 2021年度は、特殊鋼需要の回復を背景として、売上数量の増が見込まれる一方、鉄スクラップ等の原燃料価格の上昇、緊急収益改善対策終了による固定費の戻りが想定されること等により経常利益70億円を見込む。
- コスト競争力、海外事業の収益力の強化に努め、事業基盤の強化を図る。

(参考)2021FY売上数量見通し(千t/Q)



2. 2021FY業績予想

損益計算書 (対2020FY)

	21FY 上期予想 (A)	21FY 下期予想 (B)	2021FY予想 (C) = (A)+(B)		2020FY(D)		増減 (C) - (D)	
			金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,700	1,450	3,150	100.0	2,107	100.0	+1,043	+49.5
営業利益	41	32	73	2.3	▲55	-2.6	+128	-
経常利益	40	30	70	2.2	▲48	-2.3	+118	-
内、当社単独	35	27	62	-	22	-	+40	+181.0
内、Ovako(注1)	23	15	38	-	▲24	-	+62	-
内、MSSS(注2)	▲0	1	0	-	▲13	-	+13	-
内、のれん償却費(注1)	▲19	▲12	▲31	-	▲26	-	-5	-
税後利益(注3)	18	17	35	1.1	▲69	-3.3	+104	-
売上数量(千t)	1,044	894	1,938	147.5/月	1,367	113.9/月	+571	+33.7/月
内、当社単独	474	479	953	79.4/月	704	58.7/月	+249	+20.7/月
内、Ovako	496	340	836	55.7/月	572	47.6/月	+264	+8.1/月
内、MSSS	74	76	149	12.4/月	91	7.5/月	+59	+4.9/月

(注1) Ovako損益およびのれん償却費:

決算期を従来の12月から3月へ変更するため2021FY予想は2021年1月~2022年3月の15カ月の数値

(2021FY上期予想は1月~9月の9ヵ月、2021FY下期予想は10月~2022年3月の6ヵ月の数値)

2020FYは2020年1月~12月の12ヵ月の数値 (注2) MSSS損益: 1月~12月の数値

【予想の主要前提(2021年4月以降)】

- 鉄スクラップ(購入) 46.0千円/t (姫路地区H2市況)
- 原油(ドバイ) 70\$/BL ・為替 100円/\$、120円/€

Ovakoの決算期変更について


(1) 変更内容

2021年度より、Ovakoの決算期を12月から当社単独と同じ3月へ変更。
移行期となる2021年度は、2021年1月～2022年3月の15か月決算を実施。

(2) 当社連結決算への影響

当社連結決算上、Ovakoの2021年1～3月損益が、「**Ovakoの決算期変更影響**」となる。
連結経常利益への影響は、**+8億円**(Ovako経常利益 15億円、のれん償却費 -7億円)。

2020年度				2021年度				
2020年1-12月				2021年1月-2022年3月				
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
20/1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21/1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	22/1-3月

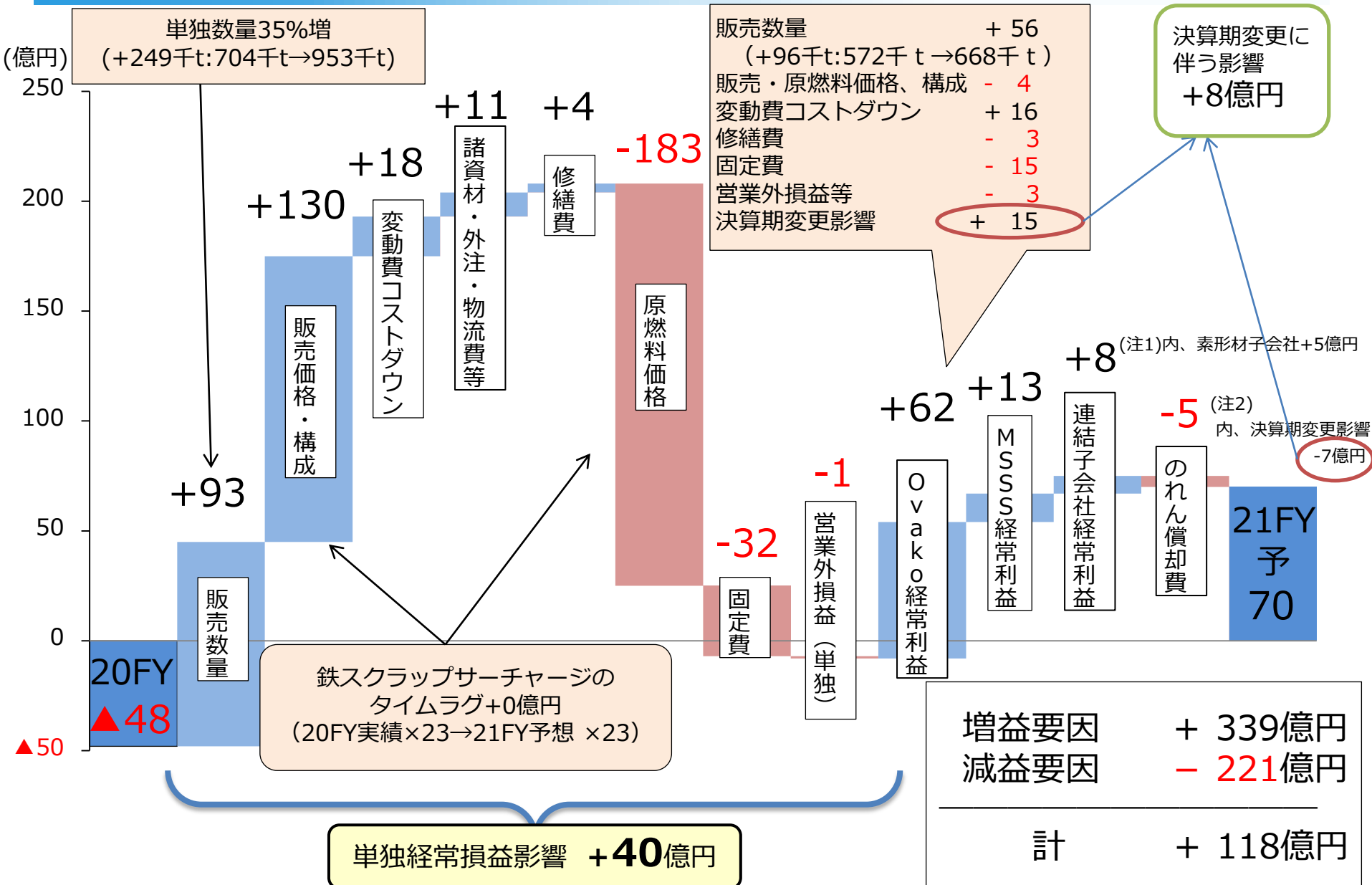


決算期変更影響

(3) 変更の理由

Ovakoは、他の海外子会社と同様、3か月遅れで連結決算に取り込んでいた。同社は当社単独の次に大規模な子会社(売上高は当社単独の約8割)であり、連結業績に占める割合が高い。同社の決算期を当社単独と統一することにより、適時・適切な業績開示とグループ経営管理を実施する。

経常利益の変化要因 (2020FY実績→2021FY予想)



当社単独業績

2020年度の概況および2021年度の見通し

コロナ影響

自動車、産業機械・建設機械など主要需要業界の活動水準の低下により受注が大幅に減少したが、2020年夏頃から改善(右図参照)

2020年度上期は、新型コロナウイルス影響で売上数量が大幅に減少、経常赤字となったが、下期は、主要需要業界の回復により売上数量が回復し経常黒字を確保。通期の経常損益は22億円を計上した。

2021年度は、需要を確実に捕捉し販売数量を確保するとともに、引き続き販売価格改善に取り組み、適正マージンを確保する。また、生産面では継続して最適コスト操業を徹底。事業基盤の強化を図り、62億円の経常利益確保を目指す。

事業基盤強化に向けた施策

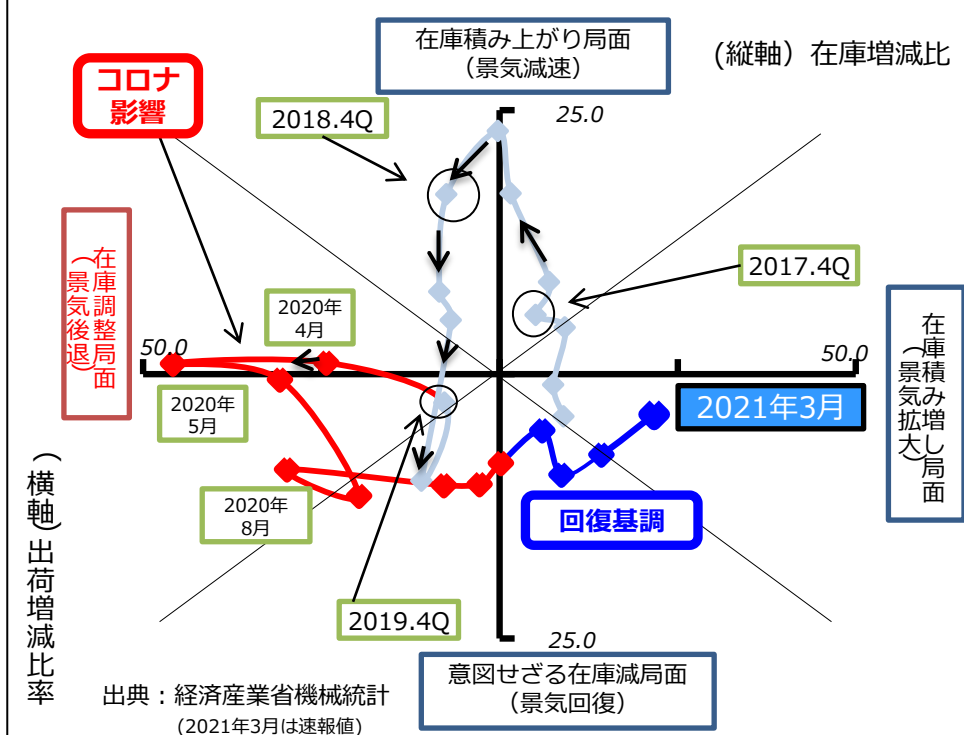
(1) コスト競争力の強化

従来 of 事業環境には戻らないとの強い危機感の下、固定費・変動費の抑制を図る。

(2) 販売数量・適正マージンの確保

- ・グローバル需要の確実な捕捉、当社の強みを生かした拡販
- ・非サーチャージ向けを始めとした販売価格改善
- ・販売構成の高度化
- ・効率的な生産、最適コスト操業の徹底

軸受在庫循環図



安定的な収益を確保できる
盤石な企業体質を確立する。

2020年度の概況および2021年度の見通し

2020年度上期は、1Qに需要が回復、2Qにコロナ影響が現出したものの、収益改善施策の徹底等により4億円の経常黒字を確保。

2020年度下期は、2020年8月に120人程度の人員削減を決定する等、収益改善施策を継続。3Qにコロナ影響が最大化し、▲28億円の経常赤字となった。なお、4Qは前年同期並に販売が回復し経常黒字(0億円)を確保。

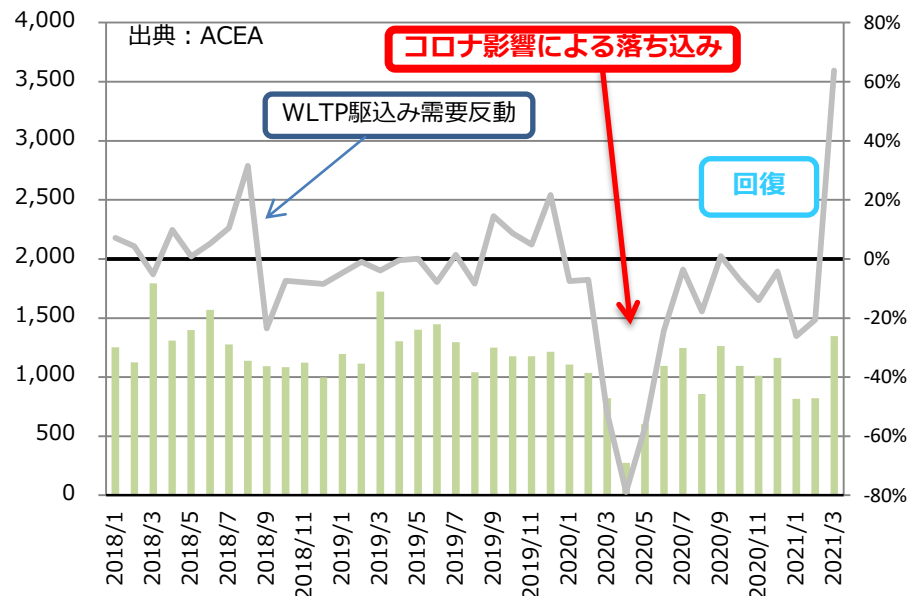
2021年度は、固定費削減、操業改善や調達コストダウンを通じた変動費削減による収益力強化、3社連携によるシナジー効果の発現等により、経常利益38億円の確保を目指す。

なお、決算期を従来の12月から3月へ変更 (P16ご参照)

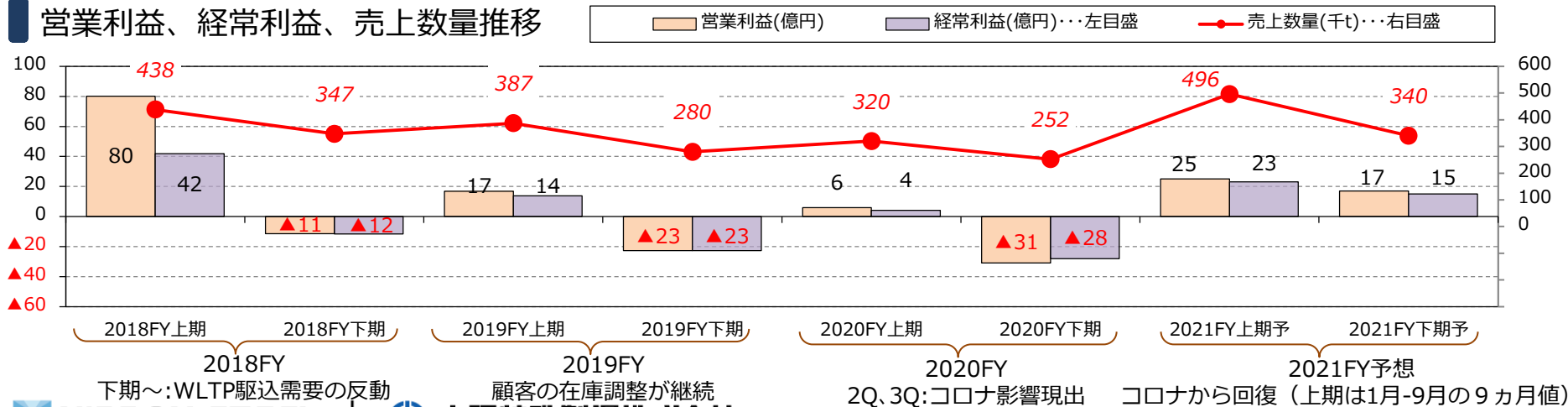
収益力の強化、サポート体制

- ・コスト競争力の強化
変動費コストダウン推進、2020年8月に決定した人員削減の遂行
- ・3社連携によるシナジー効果の発揮 (引き続き実施)
① 拡販活動の推進 ② 操業コストの削減 ③ 調達コストの削減
- ・Ovakoアドバイザリーコミッティー設置
当社社長をヘッドとした経営サポート体制を構築し、Ovakoの収益改善に向けた取り組みの支援を強化。

欧州自動車販売台数(前年同月比増減率)



営業利益、経常利益、売上数量推移



MSSS業績

Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.
 本社インドムンバイ。特殊鋼一貫製造・販売子会社。2018年6月子会社化。

2020年度の概況および2021年度の見通し

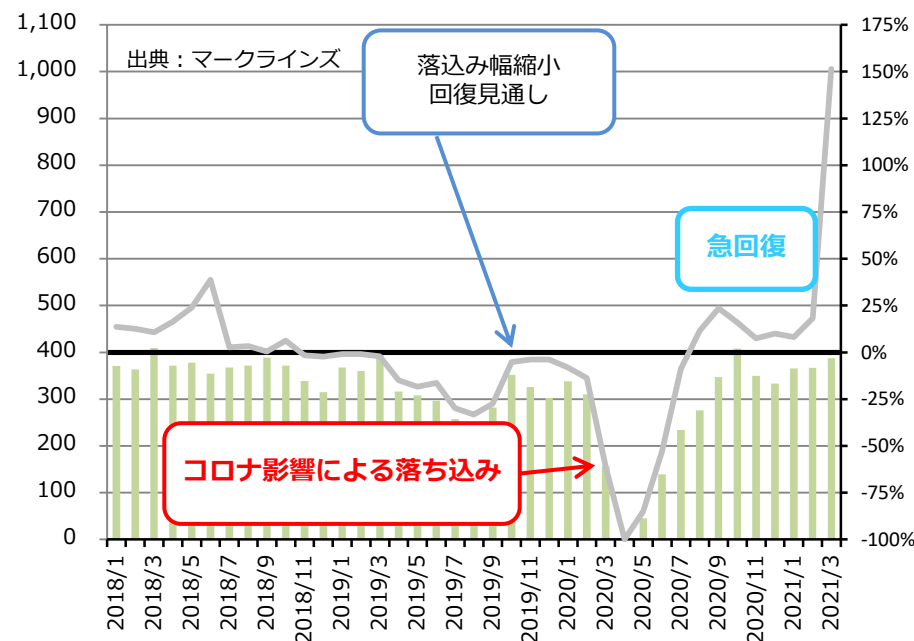
コロナ影響

- ・ MSSS工場所在地であるマハラシュトラ州コポリ地区がロックダウン、MSSSは2020年3月下旬から5月中旬、7月中旬から下旬にかけて操業停止を余儀なくされた。
- ・ 自動車を中心に需要は大幅に低下したが、自動車販売は2020年4月を底に前年同月比のマイナス幅が縮小、8月以降は前年同月比プラスで推移。
- ・ 販売数量は2020FY2Q(4-6月)を底に回復、堅調に推移していたが、2021年4月、コロナ感染拡大に伴う規制により酸素供給が停止、足元、生産に影響が出ている。

2020年度は、コロナ影響による販売数量減等により、経常損益は▲13億円の赤字となった。

2021年度は、コスト競争力・営業力の強化により、拡大・高度化するインド市場でのポジションを高め、黒字化をめざす。

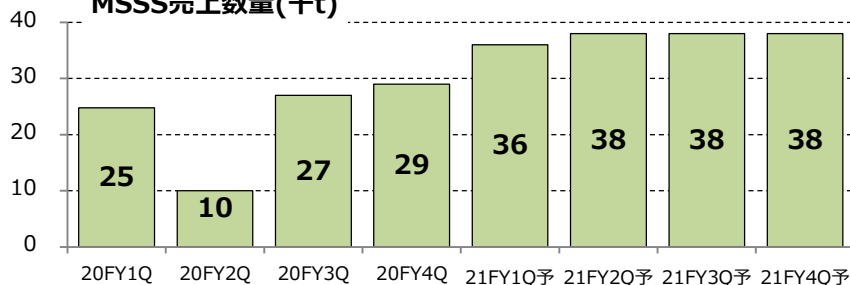
インド自動車販売台数(前年同月比増減率)



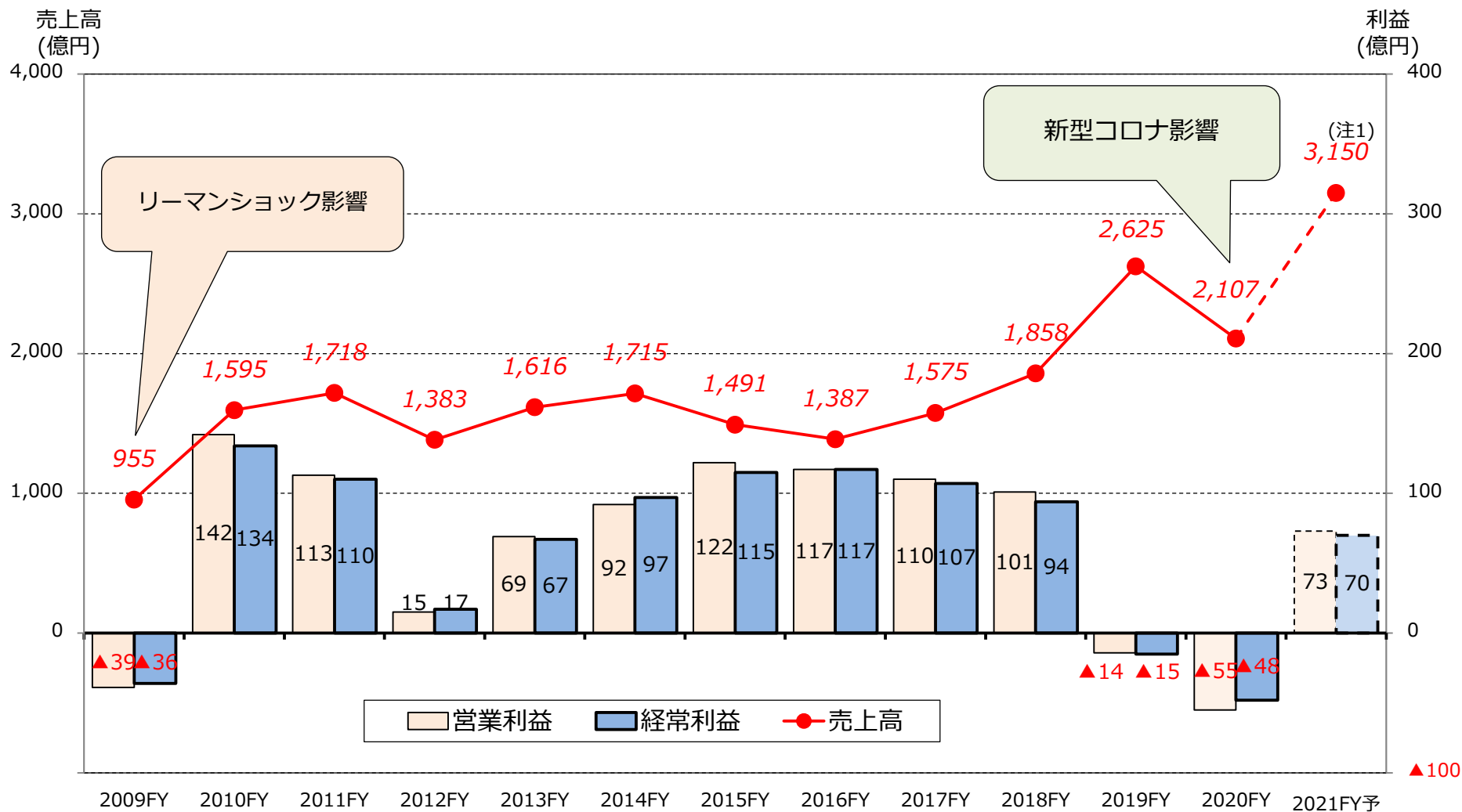
収益確保に向けた取り組み

- ・ 固定費の削減
 - 要員適正化を含む労務コストの削減
- ・ 変動費の削減
 - エネルギー原単位改善や安価原料の有効活用による操業コスト・調達コストの削減
- ・ 営業活動・営業体制の強化
 - 拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善

MSSS売上数量(千t)



業績推移(年度)



(注1) 2021FY予想において、Ovakoは2021年1月～2022年3月の15カ月の数値。

(注2) MSSSは2018FY2Qから、Ovakoは2019FY1Qから損益を連結。

2021FY配当予想

		2021FY 中間予想	2021FY 期末予想	2021FY 年間予想
当期純利益(注)		18億円	17億円	35億円
のれん償却費を除く当期純利益		37億円	29億円	66億円
1株当たり純利益	A	33.0円		64.2円
のれん償却費を除く1株当たり純利益	B	67.9円		121.1円
1株当たり配当金	C	20.0円	16.0円	36.0円
配当性向	C/B	29.5%		29.7%
	C/A	60.6%		56.0%

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益

<配当方針>

のれん償却費を除く1株当たり当期純利益に配当性向 **30%**程度を乗じた金額を配当額とする

(1) 次期経営計画(25年中期)の策定について (2021年4月30日公表)

当社は、2021年度～2025年度を実行期間とする次期経営計画を策定・公表。

環境想定

- ・人口減少・高齢化に伴う内需減
- ・地産地消化等の構造変化に伴う直接・間接輸出減
- ・EV化進展等を踏まえた内外特殊鋼メーカーによる競争激化
- ・カーボンニュートラルに向けた調達面での競争激化

基本方針

- ・グローバルな特殊鋼マーケットでの企業価値の更なる向上
- ・海外事業の収益力強化
- ・日本製鉄・Ovakoとの3社シナジーのフル発揮
- ・技術先進性の更なる拡大
- ・2050年カーボンニュートラルの実現を目指す
- ・DXの推進
- ・ガバナンス体制の強化、ダイバーシティ経営・健康経営の推進
- ・「素形材事業」と「粉末事業」の収益力強化
- ・グループ会社の選択と集中

- ◆グループ全体のコスト競争力強化
- ◆適正マージンの確保と販売構成の高度化
- ◆Ovako、MSSSのコスト競争力強化
- ◆3社シナジー効果を2024年度までにフル発揮
- ◆強みの高純度鋼を軸に、新たな顧客要求や環境課題に対応
- ◆EV、風発、水素社会等の分野での高信頼性ニーズに応える技術の深化
- ◆エコプロセス、エコプロダクト、エコソリューションの推進
- ◆最新デジタル技術の活用による生産プロセス、業務プロセス等の改革と効率化
- ◆素形材事業での鋼材一貫収益力の強化
- ◆粉末事業での5G・脱炭素化に対応した戦略アイテムの開発・拡販

などにより、事業基盤の強化を通じ、安定的な収益を確保できる盤石な企業体質を確立し、グローバルな特殊鋼マーケットでの企業価値の更なる向上を図る。

(2) 新たな特殊鋼の清浄度評価技術を開発 (2021年3月30日公表)

- ・ 当社は、特殊鋼の清浄度を迅速かつ正確に測定する技術を確立。
- ・ 鋼材中に含まれ疲労破壊の起点となり得る最大介在物の大きさを、より高い精度で推定可能。

開発の背景

カーボンニュートラルに向けたE V化、風力発電の普及・拡大

→ 特殊鋼のさらなる信頼性向上ニーズの高まり

→ 介在物の大きさを低減する製造技術開発には、さらに高精度な評価技術が必要

開発のポイント

① 従来サイズの数十倍の独自設計の大型試験片を用いる

② 水素による脆化作用と超音波疲労試験を組み合わせる

→ 迅速かつ正確に、大型試験片中の最大介在物を測定できる

今後の期待と効果

- ・ この評価技術の活用により、これまで以上に信頼性の高い特殊鋼の製造技術の開発、お客様の部品設計の最適化に貢献できる。
- ・ 部品の小型・軽量化による自動車等のエネルギー効率向上、風力発電等のカーボンフリー電源の普及拡大に貢献できる。



(3) 定年延長の実施 (2021年4月1日)

当社は、他の特殊鋼専門メーカーに先行して2021年度より定年年齢を65歳へ引き上げ。

概要

- ・ 定年年齢を満60歳から満65歳に引き上げ。
- ・ 65歳まで役職に就くことが可能。

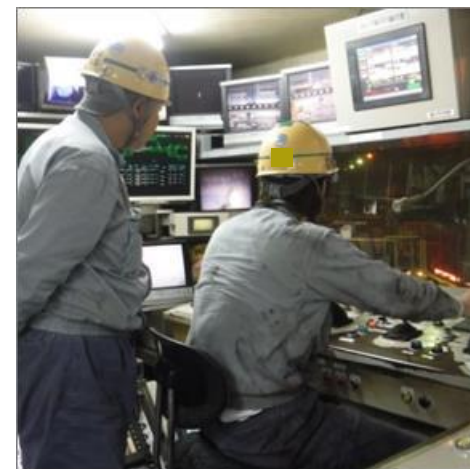


ねらい

- ・ 従事してきた業務領域で高度専門家として能力発揮。
- ・ 技術・技能の伝承、モノづくり能力の維持・向上。
- ・ 後進育成に取り組み、将来活躍する人材を育成。



- ・ ベテラン層の士気向上と職場全体の活力向上を目指す。
- ・ 今後も、全ての社員が持てる能力を最大限に発揮できる環境作りに取り組む。



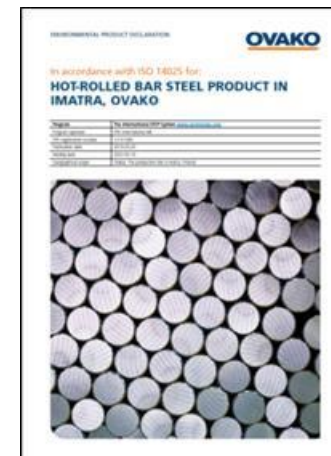
トピックス ESG

(4) Ovako社 気候変動対策に寄与する環境製品宣言を公開 (2021年2月11日公表)

- ・ Ovako社は新たな環境製品宣言(EPD)を公開。
- ・ 環境製品宣言とは、第三者の認証を受けた環境負荷情報を需要家に提供する取り組み。

Ovako社の環境製品宣言

- ・ カーボンフットプリント(製品のライフスタイル全体の温室効果ガス排出量)を含む環境負荷情報を提供。
- ・ 上記情報は、工場で製造される熱間圧延鋼材の、原材料入手から工場出荷までのライフサイクル分析に基づく。
- ・ 個々の製品ごとに需要家への情報提供が可能。

**Ovako社の取り組み**

- ・ 先進的なサステナビリティへの取り組みとして、2017年に特殊鋼業界で初めて自社のカーボンフットプリントを公開。
- ・ 2020年4月に、世界で初めてピット炉で水素を用いた鋼片加熱テストに成功。この技術で生産すると加熱時のCO₂発生がなく、環境負荷を大幅に軽減可能。
- ・ Ovako社の製品は、再生可能エネルギーの利用などにより製品のカーボンフットプリントが世界平均より80%以上低い。今後も需要家の環境負荷低減と競争力向上に貢献していく。



新型コロナウイルス感染症への対応(2021年4月30日時点)

国内での対応

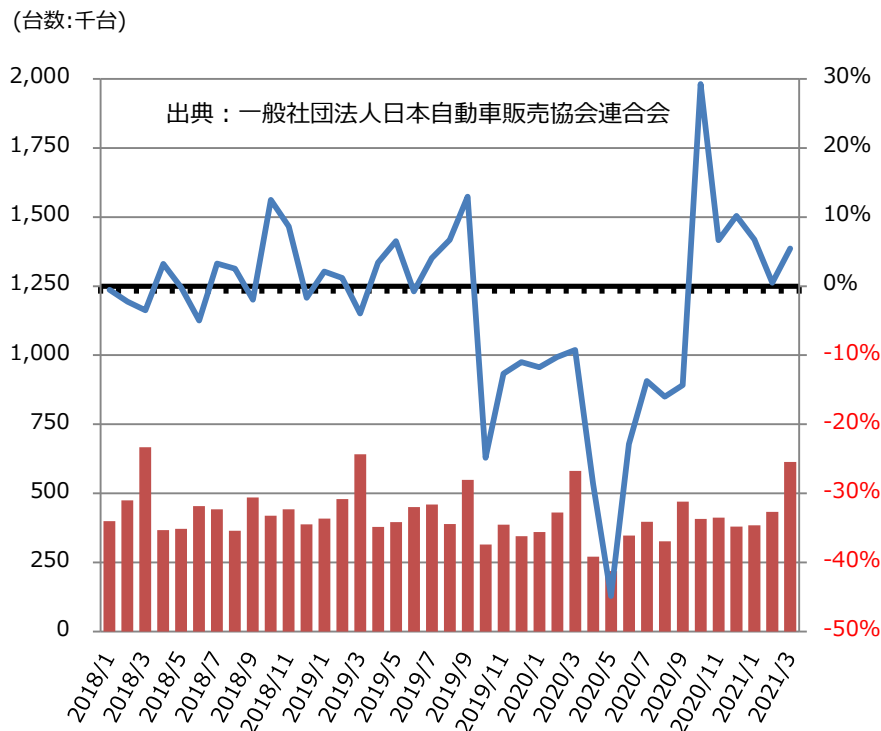
- ・在宅勤務が可能な職務の従事者は、在宅勤務を原則とする。出社が必要な場合は原則20時までに帰宅
- ・会議・行事はWeb等の利用を基本とし、開催する場合は人数・時間の最小化を図る。
- ・社外との対面での会議は原則として控える。
- ・テレワーク環境を整備
- ・混雑時間帯を避けた出退勤（姫路地区での公共交通機関利用 4%）
- ・食事場所は席の距離を可能な限り確保。会話は控え、会話する場合はマスクを着用
- ・アルコール消毒液、マスクの配布
- ・サーモグラフィカメラ、体温計の設置
- ・出社前の検温を実施。来訪者も入構時に検温を実施
- ・手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用、室内の換気
- ・海外出張、国内出張は原則見合わせ、Web会議等を活用
- ・懇親会は原則見合わせ

海外での対応

- ・インドにおけるコロナ感染拡大を踏まえ、インド派遣者の帰任を見合わせ。
日本からリモートにて緊密にコミュニケーションを図り、経営管理を徹底。
- ・基本的に各国の法令・方針に従った措置を行う。
- ・海外の情報収集、海外駐在員・家族へのサポート実施
- ・出社前の検温を実施
- ・手洗い、うがい、アルコール消毒、マスク着用の励行

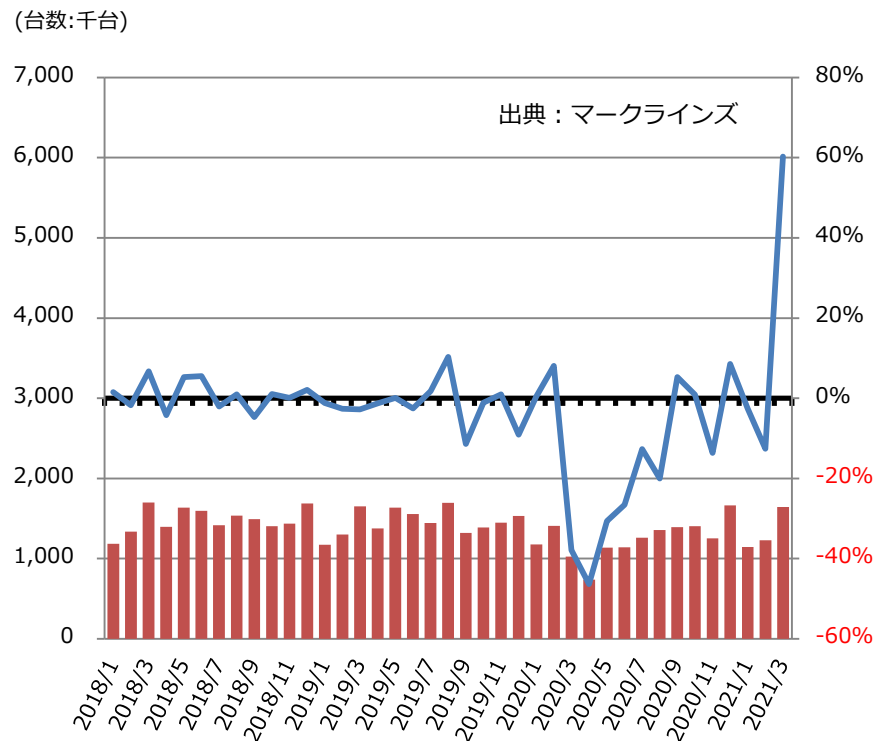
自動車市場の動向

日本自動車販売台数 (前年同月比増減率)



2019/11以降、マイナス幅は縮小傾向だったが、2020/4以降は新型コロナウイルス影響で下落継続、2020/5は前年同月比で-44.8%と大きく下落。2020/6以降はマイナス幅縮小。2020/10は、前年に消費税増税や大型台風被害により大幅な減となっていた反動で、前年同月比が+29.3%と大きく上昇。その後もプラス圏で推移し、2021/3の前年同月比は+5.4%。

米国自動車販売台数 (前年同月比増減率)

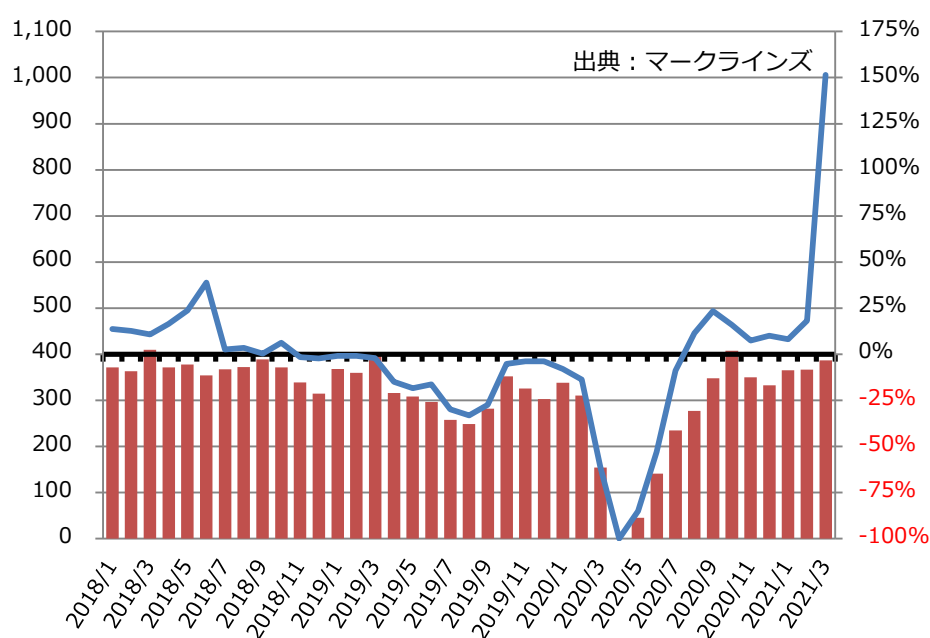


2019年前半はやや回復基調であったが、後半からストライキ等の影響もあり鈍化。2020/02は回復が見られたが、2020/3以降は新型コロナウイルス影響による下落傾向が顕著で、2020/04は前年同月比で-46.3%と大幅下落。2020/05以降は前年同月比のマイナス幅が縮小し、2020/12は同+8.6%まで回復。2021/3は前年の新型コロナウイルス影響による大幅減少の反動で同+60.3%。

自動車市場の動向

インド自動車販売台数 (前年同月比増減率)

(台数:千台)

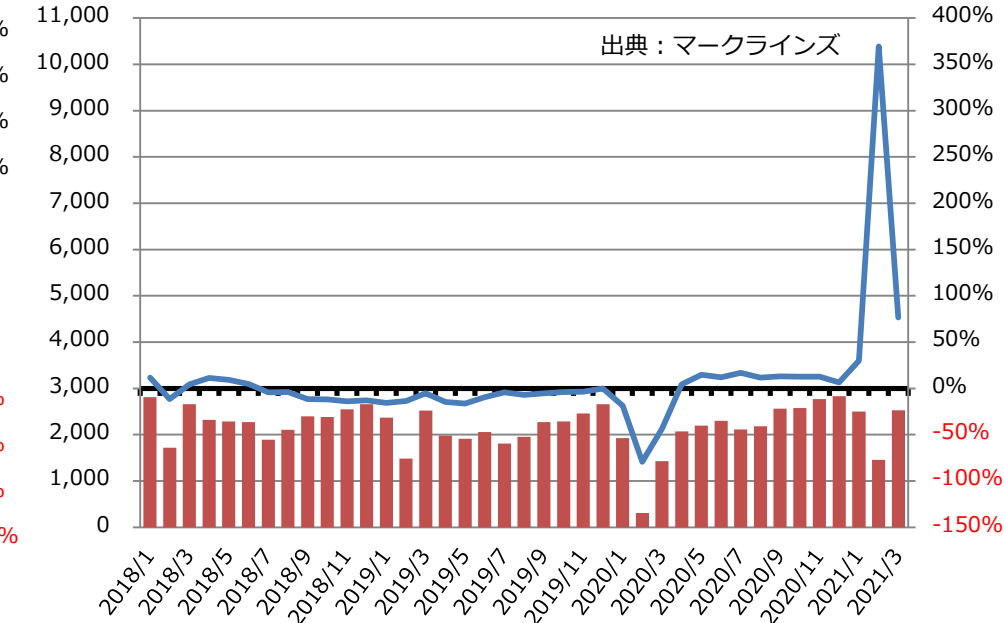


保険料引上げ、燃料価格上昇、自動車ローン貸渋り、雇用環境悪化などの影響で、2018/07頃から長期にわたり落込みが継続。2019年秋口を底に、底打ちの兆しがあったが、2020/3以降は新型コロナウイルス影響で下落が顕著。2020年3月25日からインド全土のロックダウンとなり、2020/04は前年同月比で-100%。段階的にロックダウンは解除され、5月になってから販売が再開。2020/08には前年同月比プラスに回復し、2020/09は+23.5%まで上昇。以降前年同月比プラスで推移。2021/3は、前年の新型コロナウイルス影響による大幅減少の反動で同+151.5%。

中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース)

(前年同月比増減率)

(台数:千台)

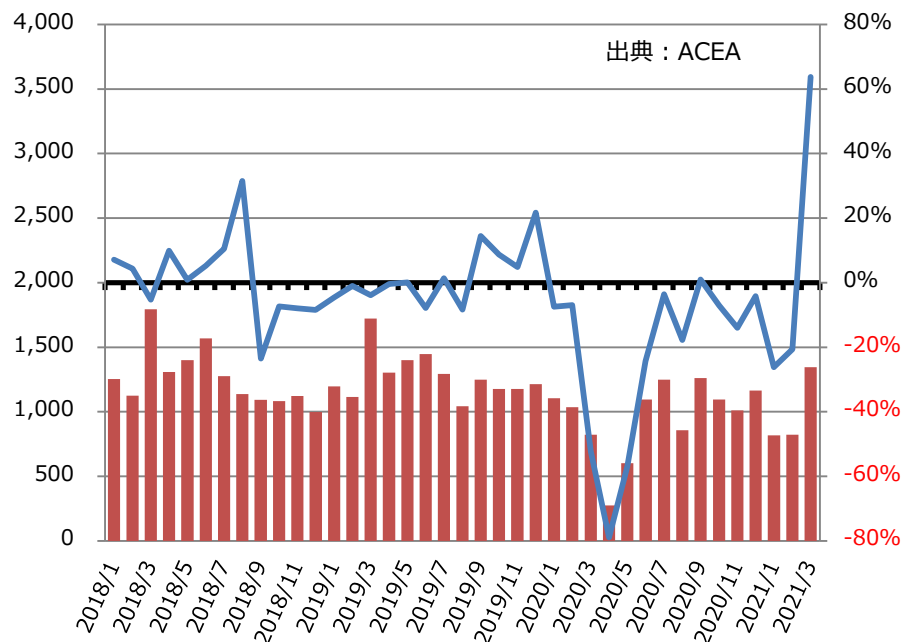


米中貿易摩擦、都市部での新排ガス基準導入影響で、2018年後半から前期比で落込。2019年夏ごろよりマイナス幅縮小傾向であったが、新型コロナウイルス影響で2020/2は前年同月比-79%と大きく下落。その後は回復基調となり、2020/05以降は新型コロナウイルスの感染がおおむね抑制されたことを受け、前年同月比で+10%超が継続。2021/2及び2021/3は前年に新型コロナウイルスの打撃を受けた反動でそれぞれ前年同月比+369.4%、+76.6%となった。

自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 (前年同月比増減率)

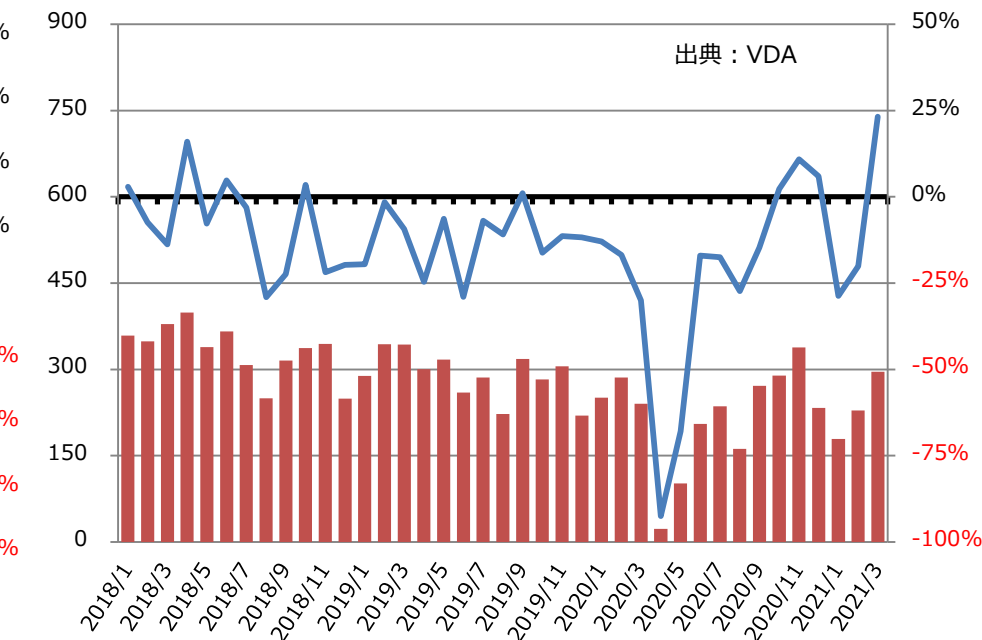
(台数:千台)



2018/09の落込みはWLTP導入影響。以降はブレクジットや米中貿易摩擦などの懸念材料もあり、2019年夏頃までは、低調に推移。2019/09から回復の傾向がみられていたが、新型コロナウイルス影響で、2020/04は、前年同月比-78.9%と激減。2020/05以降、前年同月比のマイナス幅は縮小。2020/09は+1%となったが、2020/10以降は新型コロナウイルス感染再拡大の影響を受けマイナス圏で推移。2021/3は、前年の新型コロナウイルス影響による大幅減少の反動で同+63.8%。

ドイツ自動車輸出台数 (前年同月比増減率)

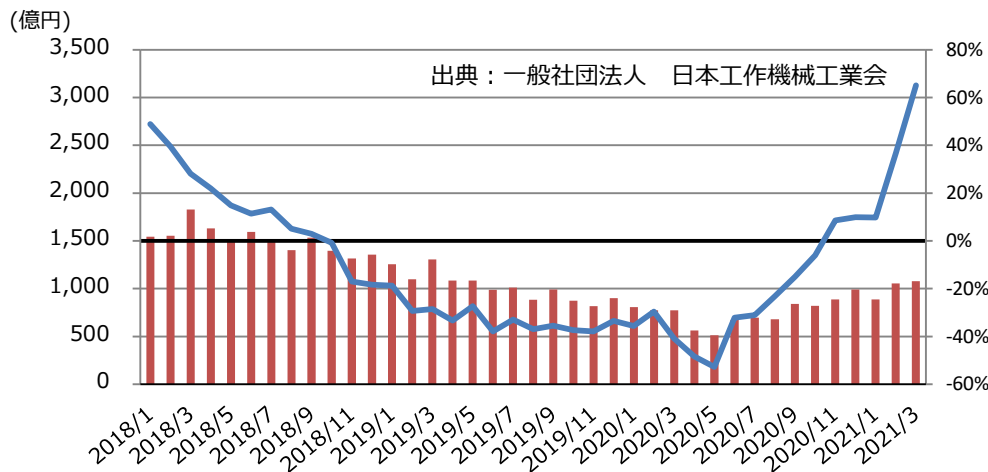
(台数:千台)



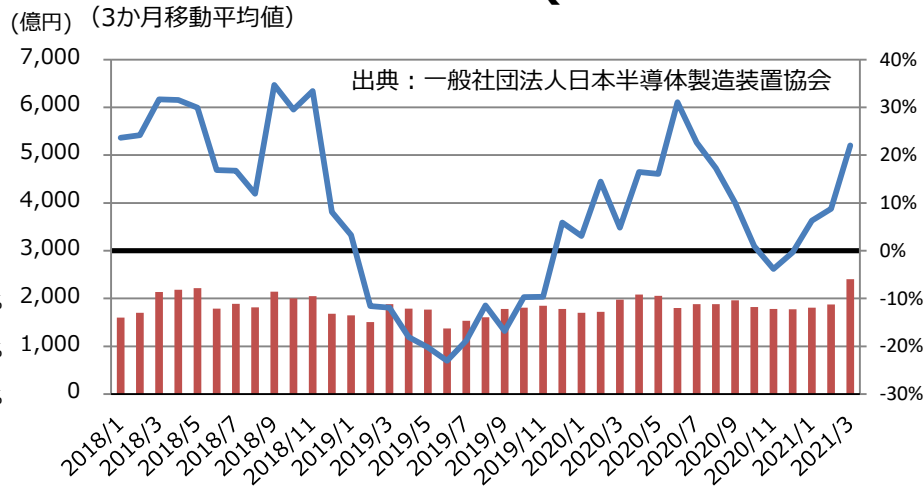
2018年以降、米中貿易摩擦の影響等で中国での自動車需要が減少、在庫調整もあり低位で推移していたところ、新型コロナウイルス影響で、2020/04は、前年同月比-92%と大きく下落。2020/05以降は前年同月比のマイナス幅は縮小、2020/11には+10.9%まで回復。2021/1は半導体不足の影響があり、前年同月比は-28.7%。その後は対中国の輸出増加で回復し、2021/3は同+23.2%。

産業機械・建設機械市場の動向

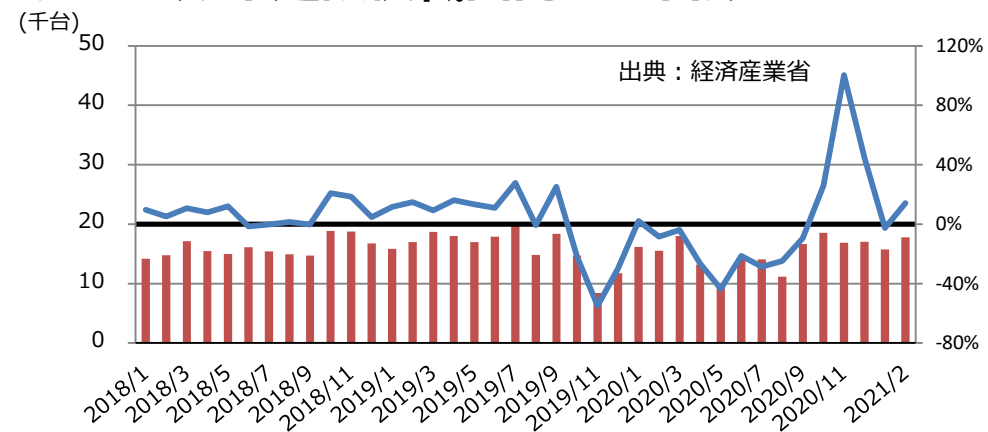
工作機械受注金額（日本）（前年同月比増減率）



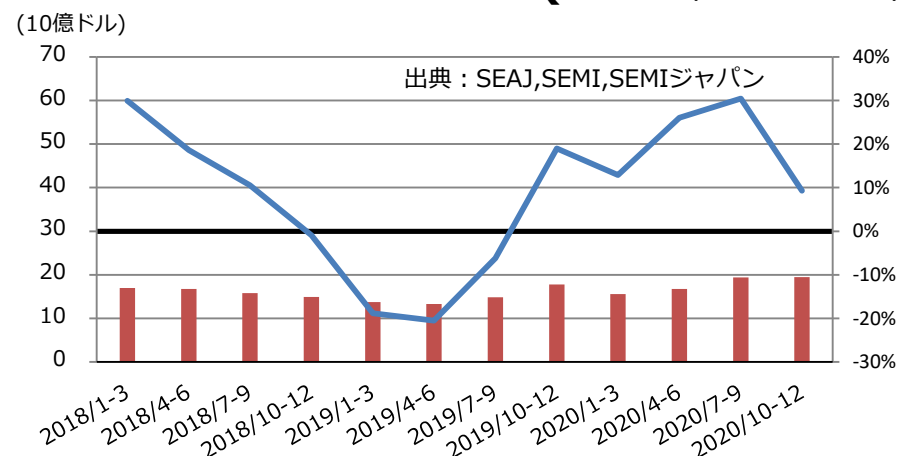
半導体製造装置販売金額(日本)（前年同月比増減率）



ショベル系建設機械国内生産台数（前年同月比増減率）



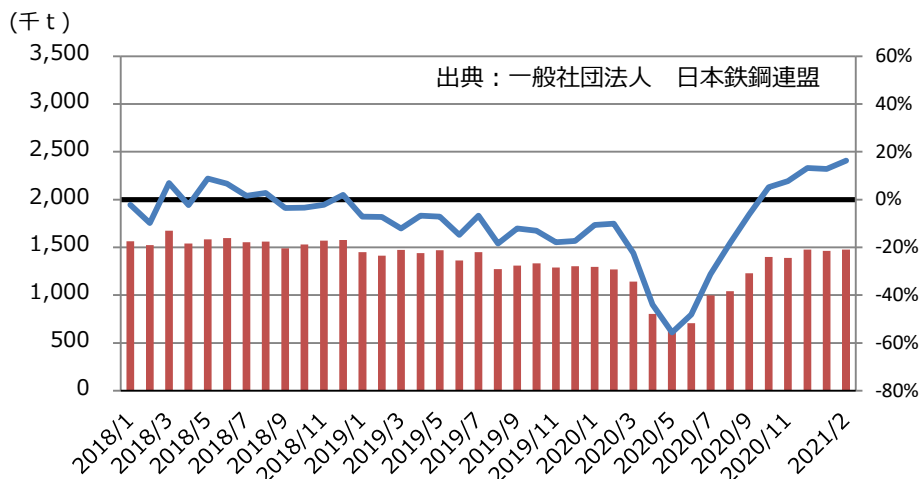
半導体製造装置販売金額(世界)（前年同期比増減率）



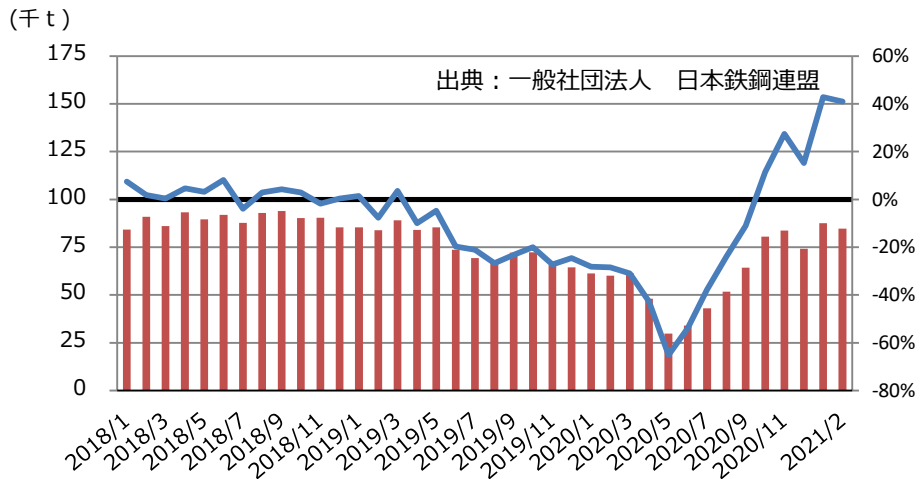
工作機械：2018年秋頃より米中貿易摩擦影響で下落。新型コロナウイルス影響で2020/5に前年同月比-53%まで下落。足元では同+65%に回復。
 半導体製造装置：2019年秋頃から5Gやデータセンター関連の投資が堅調。2020年7月以降、米中貿易摩擦の影響で日本では前年同月比減少傾向。
 2020/12以降は、5G普及による需要の高まりや世界的な供給不足に伴うメーカーの増産投資意欲の高まりで回復、2021/3は前年同月比で+22%。
 建設機械：消費税増税の需要反動等で2019年10～11月生産落込み。2020/2以降は新型コロナウイルス影響で前年同期比でマイナス推移していたが、2020/10以降は中国や欧米での需要回復と前年の反動で前年同月比は回復。足元では+14.3%。

特殊鋼需要の動向

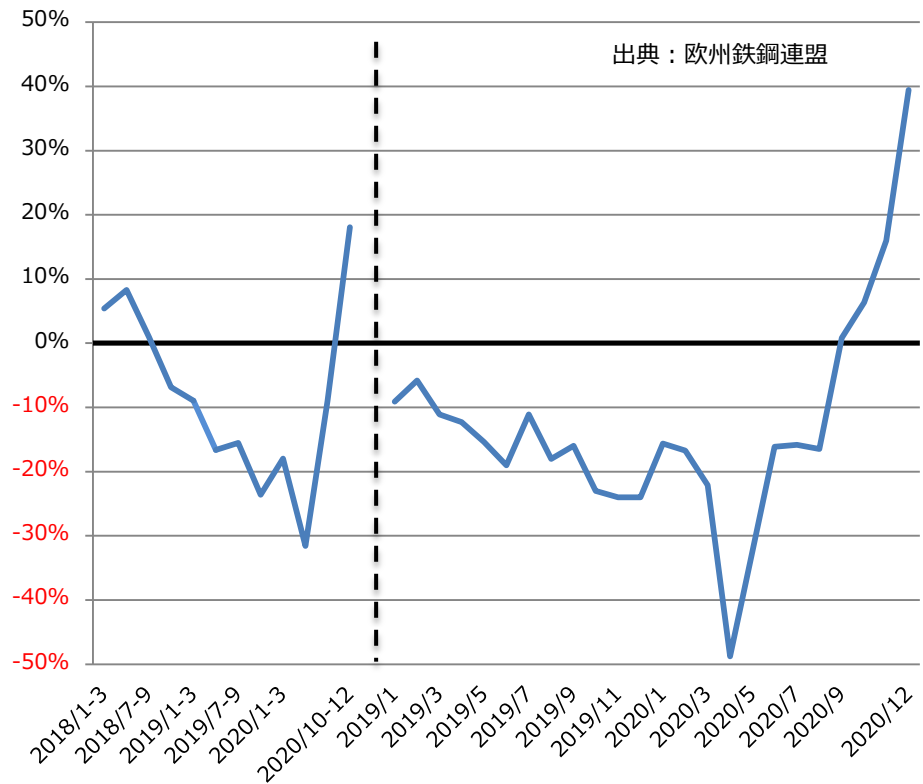
日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）（前年同月比増減率）



日本特殊鋼受注数量（軸受鋼）（前年同月比増減率）



欧州デリバリー数量 棒鋼 & 平鋼/構造用合金鋼（前年同期比増減率）

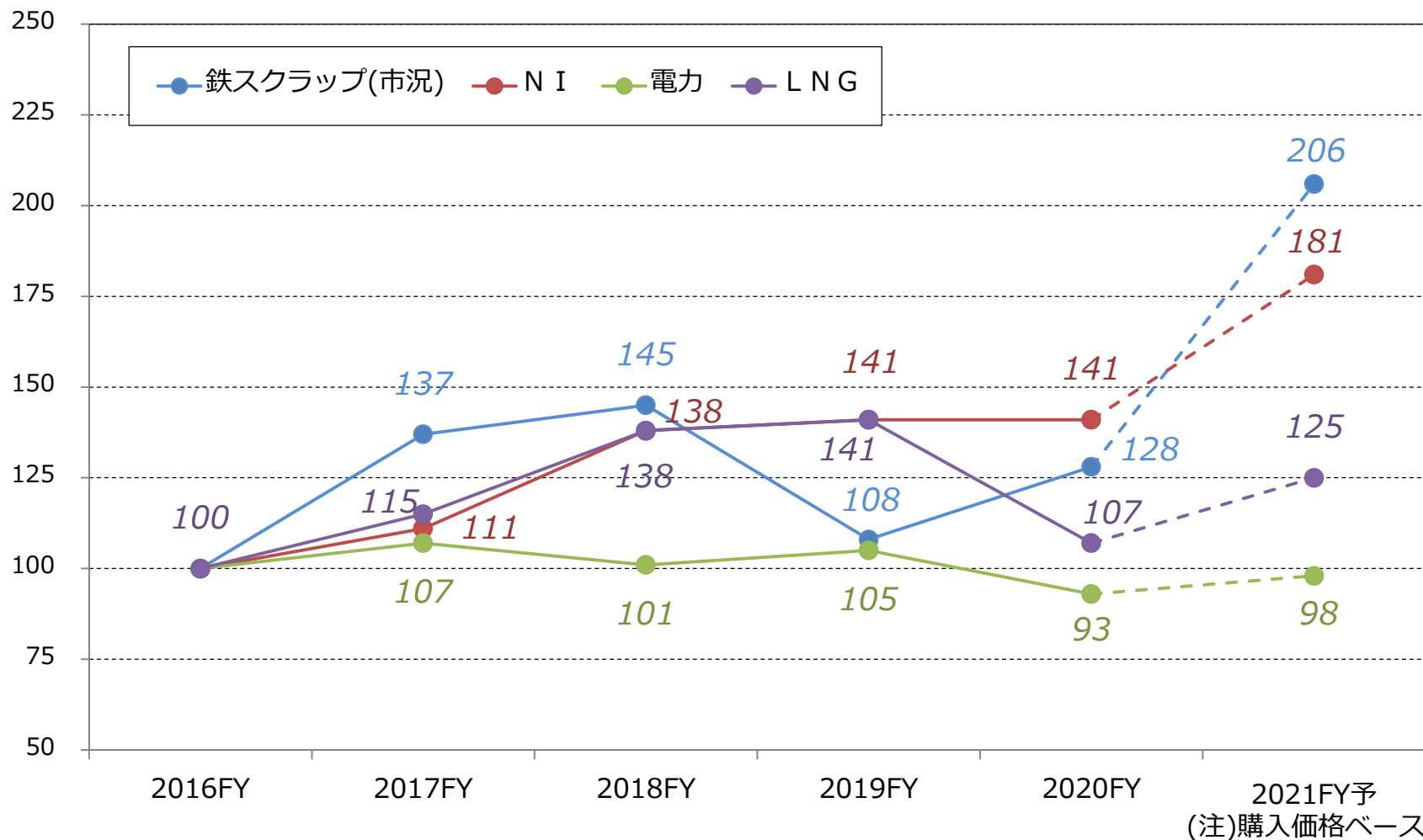


2018年10月以降、前年同期比でマイナス推移。2020年4月は前年同期比で-49%と大きく下落した（自動車向け等需要低迷およびサプライチェーンによる在庫調整影響および新型コロナウイルス影響）が、4月に底打ちしマイナス幅縮小。9月以降はプラス圏で推移し、12月は前年同期比で+39.4%

軸受鋼は、2019年夏頃から受注が急減し、その後もマイナス幅が拡大、さらに新型コロナウイルス影響で大幅下落。2020/5は前年同月比で-65%となった（新型コロナウイルス影響により世界各国での自動車・建機・産機向け需要低迷と大幅な在庫調整）。2020/6以降は中国や欧米で需要が持ち直しマイナス幅が縮小、自動車販売回復により2021/2は前年同月比で+41%。

原燃料価格の推移

(2016FY を100とした指数表示)



損益の詳細 (対2019FY)

(単位：千t、億円、円/株、%)

	20FY上期 (A)	20FY下期 (B)	2020FY (C) = (A)+(B)	2019FY(D)	増減(C)-(D)	増減率 (%)
売上数量	627	740	1,367	1,615	-249	-15.4
内、当社単独	273	432	704	854	-150	-17.5
内、Ovako(注1)	320	252	572	667	-96	-14.3
内、MSSS(注1)	35	56	91	95	-4	-4.2
売上高	972	1,136	2,107	2,625	-517	-19.7
内、当社単独	428	609	1,036	1,346	-310	-23.0
内、Ovako	469	427	897	1,064	-167	-15.7
内、MSSS	41	62	103	128	-25	-19.7
営業利益	▲39	▲16	▲55	▲14	-41	-
内、当社単独	▲20	37	17	36	-19	-52.7
内、Ovako	6	▲31	▲25	▲6	-20	-
内、MSSS	▲6	▲4	▲10	▲9	-0	-
内、のれん償却費	▲12	▲14	▲26	▲29	+3	-
経常利益	▲40	▲8	▲48	▲15	-32	-
内、当社単独	▲17	39	22	40	-18	-44.5
内、Ovako	4	▲28	▲24	▲9	-15	-
内、MSSS	▲8	▲5	▲13	▲14	+1	-
内、のれん償却費	▲12	▲14	▲26	▲29	+3	-
税後利益(注2)	▲33	▲36	▲69	▲37	-32	-
1株当たり税後利益	▲60.75		▲126.07	▲67.14	-58.93	-
のれん償却費を除く営業利益	▲26	▲2	▲29	15	-44	-
のれん償却費を除く経常利益	▲27	6	▲21	14	-36	-
のれん償却費を除く税後利益	▲21	▲22	▲42	5	-48	-
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	▲37.90		▲77.98	9.29	-87.27	-

(注1) OvakoおよびMSSSは、1～12月の数値 (注2) 親会社株主に帰属する当期純利益

損益の詳細 (業績予想)

(単位：千t、億円、円/株、%)

	21FY上期 予想 (A)	21FY下期 予想 (B)	2021FY予想 (C) = (A)+(B)	2020FY(D)	増減(C)-(D)	増減率 (%)
売上数量	1,044	894	1,938	1,367	+571	41.8
内、当社単独	474	479	953	704	+249	35.3
内、Ovako(注1)	496	340	836	572	+264	46.2
内、MSSS(注2)	74	76	149	91	+59	64.7
売上高	1,700	1,450	3,150	2,107	+1,043	49.5
内、当社単独	748	776	1,524	1,036	+488	47.0
内、Ovako	806	544	1,350	897	+453	50.6
内、MSSS	96	97	193	103	+90	87.9
営業利益	41	32	73	▲55	+128	-
内、当社単独	32	26	58	17	+41	239.0
内、Ovako	25	17	42	▲25	+67	-
内、MSSS	2	3	5	▲10	+15	-
内、のれん償却費(注1)	▲19	▲12	▲31	▲26	-5	-
経常利益	40	30	70	▲48	+118	-
内、当社単独	35	27	62	22	+40	181.0
内、Ovako	23	15	38	▲24	+62	-
内、MSSS	▲0	1	0	▲13	+13	-
内、のれん償却費	▲19	▲12	▲31	▲26	-5	-
税後利益(注3)	18	17	35	▲69	+104	-
1株当たり税後利益	33.03		64.23	▲126.07	+190.30	-
のれん償却費を除く営業利益	60	44	104	▲29	+133	-
のれん償却費を除く経常利益	59	42	101	▲21	+122	-
のれん償却費を除く税後利益	37	29	66	▲42	+108	-
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	67.90		121.12	▲77.98	+199.10	-

(注1) Ovakoおよびのれん償却費：

2021FY予想は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値(2021FY上期予想は1月～9月の9ヵ月、2021FY下期予想は10月～2022年3月の6カ月の数値)

2020FYは2020年1月～12月の12カ月の数値

(注2) MSSS：1月～12月の数値

(注3) 親会社株主に帰属する当期純利益

(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。